佐々木ミノル
SASAKI MINORU
3
ブレイクハンズ
星石を継ぐ者
MFコミックス

ブレイヴ・ハーツ

星石を継ぐ者

3

BREAK HANDS 3

CONTENTS

Chapter 7 叛旗 p003

Chapter 8 暴走 p021

Chapter 9 目的 p045

Chapter 10 儀式 p075

Chapter 11 エマ p103

Chapter 12 セシル p127

Chapter 13 終結 p151

ヒイ——!?

フェイ
あれは自動車よ
!
自動車…あれが!

カルセドニーでは石炭などを使って機械を動かす技術がすごい早さで進歩してるんですって

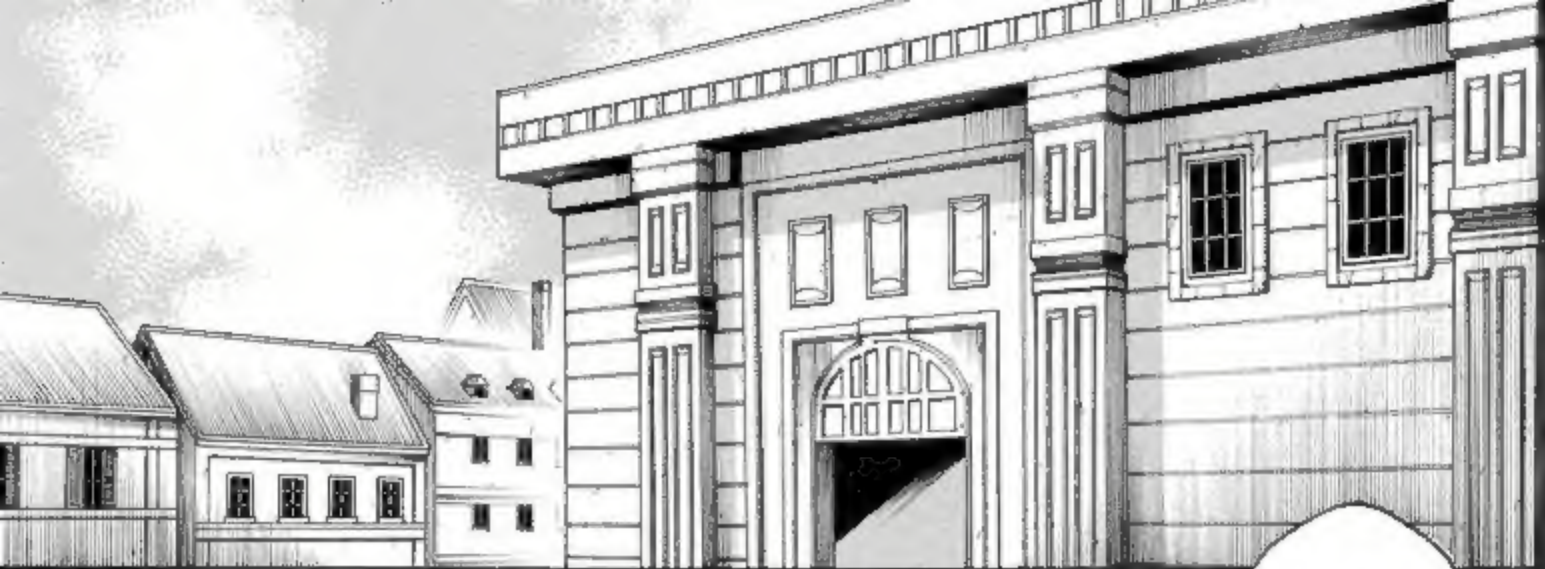
セレニティスは未だ馬車が主です
こういった技術を進歩させれば便利なのに
貴国の星石はエネルギー源としてとても優れていると聞きます

その強大なエネルギーを利用すれば
巨大船を空に浮かべる事も可能だとか――
Chapter 7 叛旗

ここが入国管理局

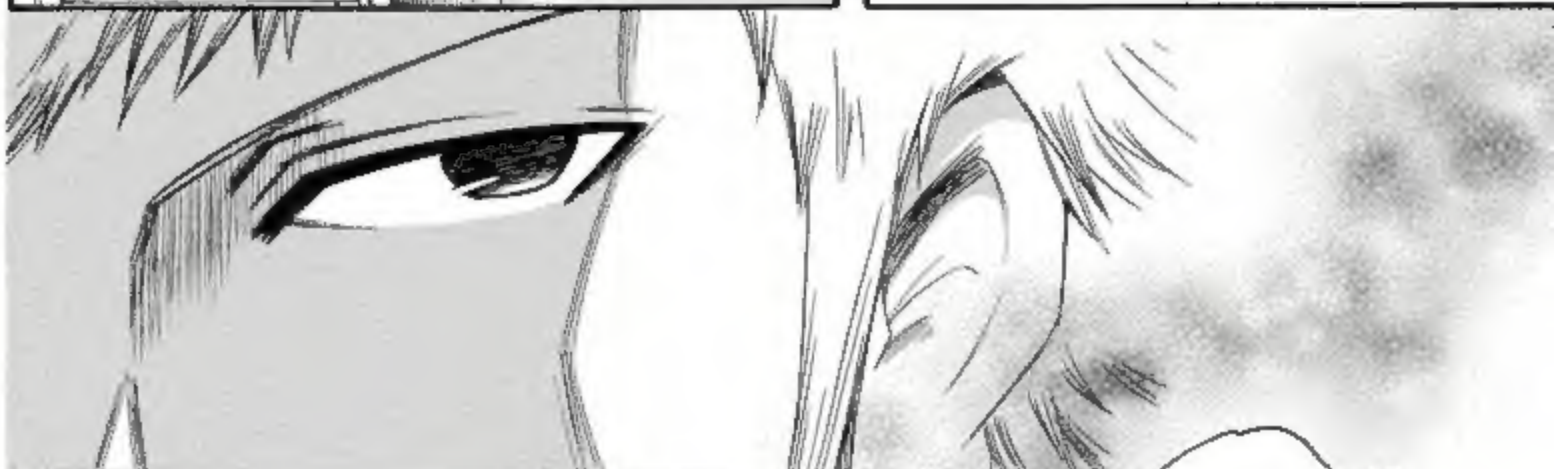
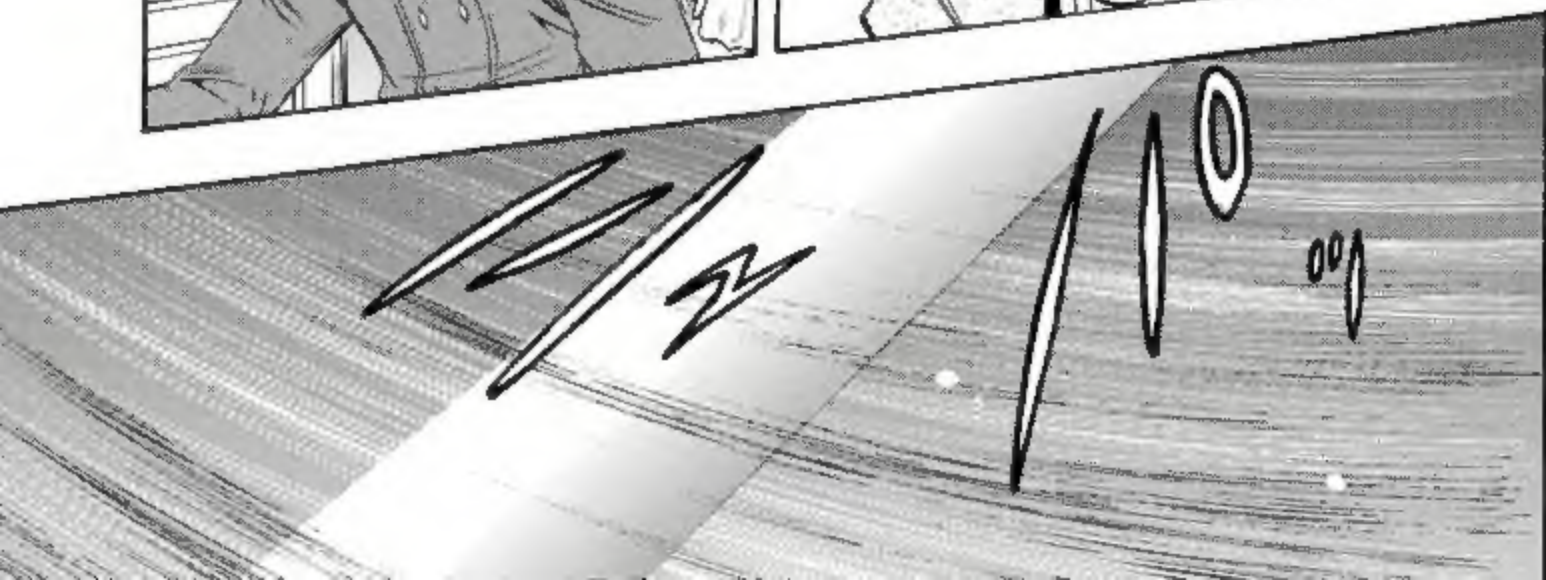
ええ

カッ

カッ

手続きはどのくらいかかるんですか？

すぐ終わります

皆さん奥へ

奥へ進んで下さい

カツ カツ
立派な建物
カツ
カツ
カツ
カツ…
カルセドニーは初めてですか
は
私は二度目です
前回も任務で？
ええ
ほんの二、三日しか滞在しませんでしたが
セレニティスより暖かい印象をうけました

さきほどは…隊長が失礼を
ああ いいえ

身分を証明できるものは？
あれぐらい慎重でなくては特務に就けないでしょう

そうですね

さあ どうぞ

こんな安い手にかかるようでは特務は務まらない

…

人目を
嫌っているのは
こちらも同じだ
残念だったな

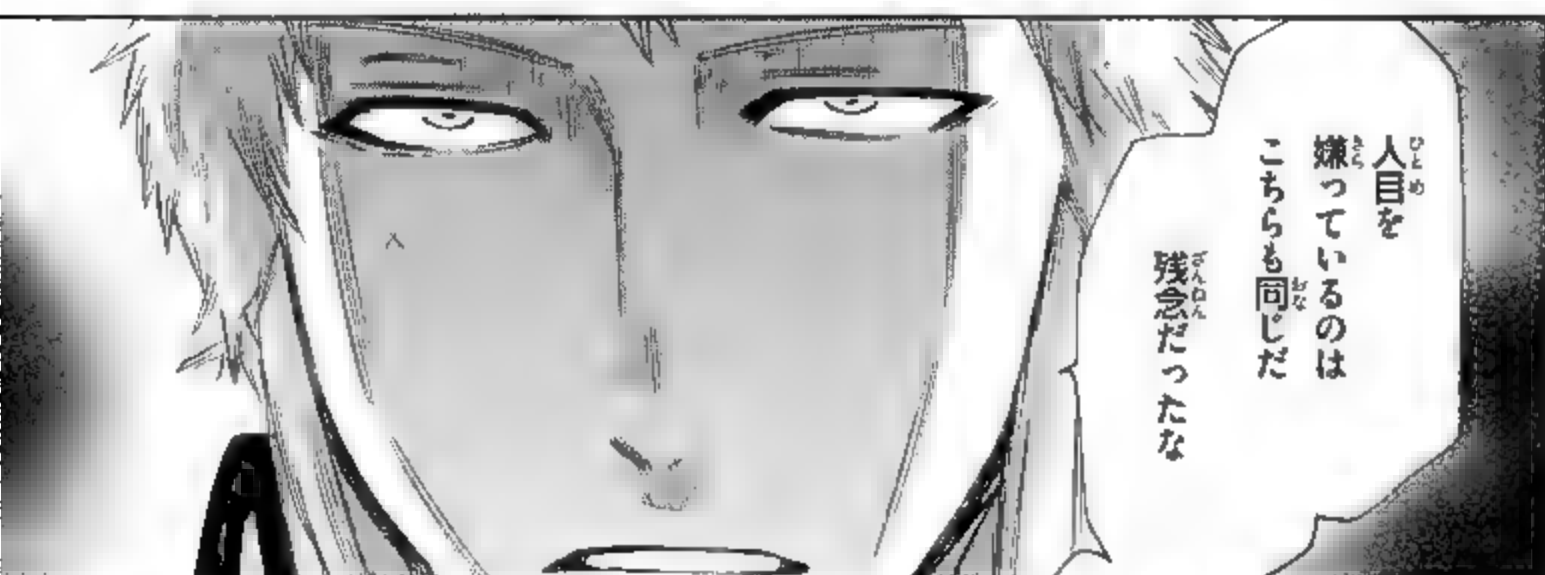
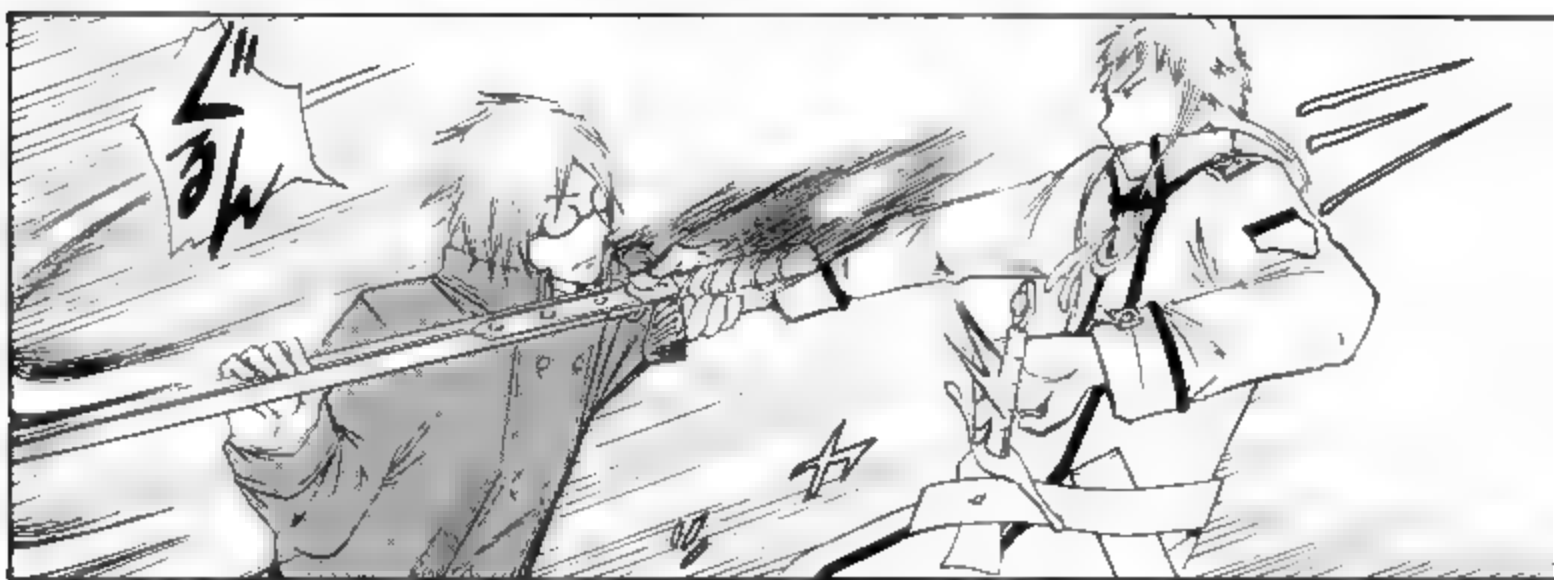
目的を話して
もらおう

!?

素手…なのか!?

アルジュナ!!
コルデ!!
気をつけろ!
ナメ…んなアッ!!!

星石の蹴りを受け…!?
!
はっ!!
フェイ!その人右手に何か細工しているのかも!!
右手じゃ受けられない所へ攻撃を!

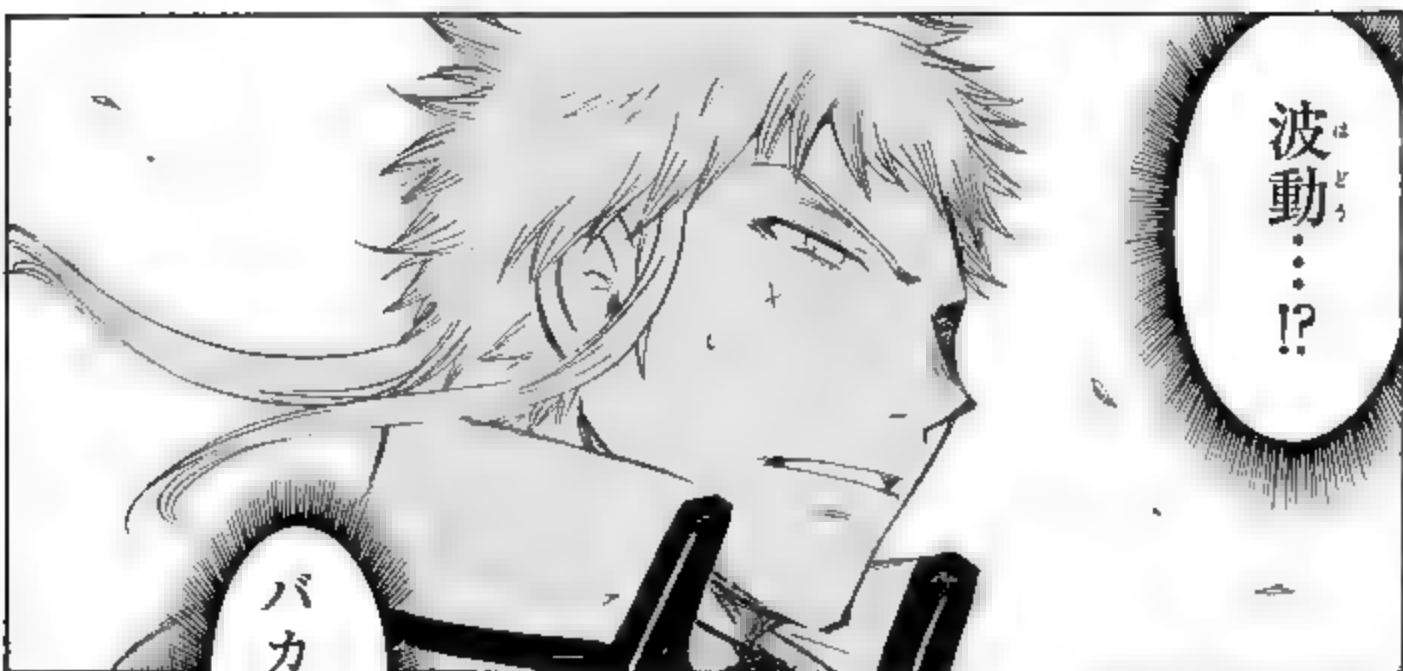
だったらア…
左かっ!!
ギシシッ
なっ!!
左も!?

少し眠っていなさい!!
!!!

波動…!?

バカな…
この男!?

あぐっ

ド
ド
ド!!

……

貴様…
"星石持ち"か!!

いや……

似て非なる
まがいもの
ですよ

話を聞いて
もらえませんか

ローラン大尉

僕はもう
これ以上

カンパニーには…
セイリュウ・ルーには
ついて行けない

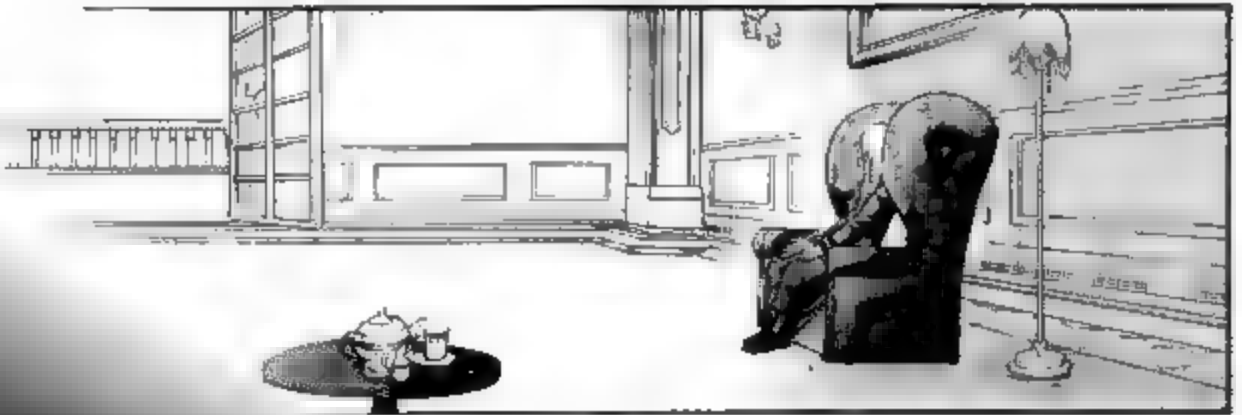
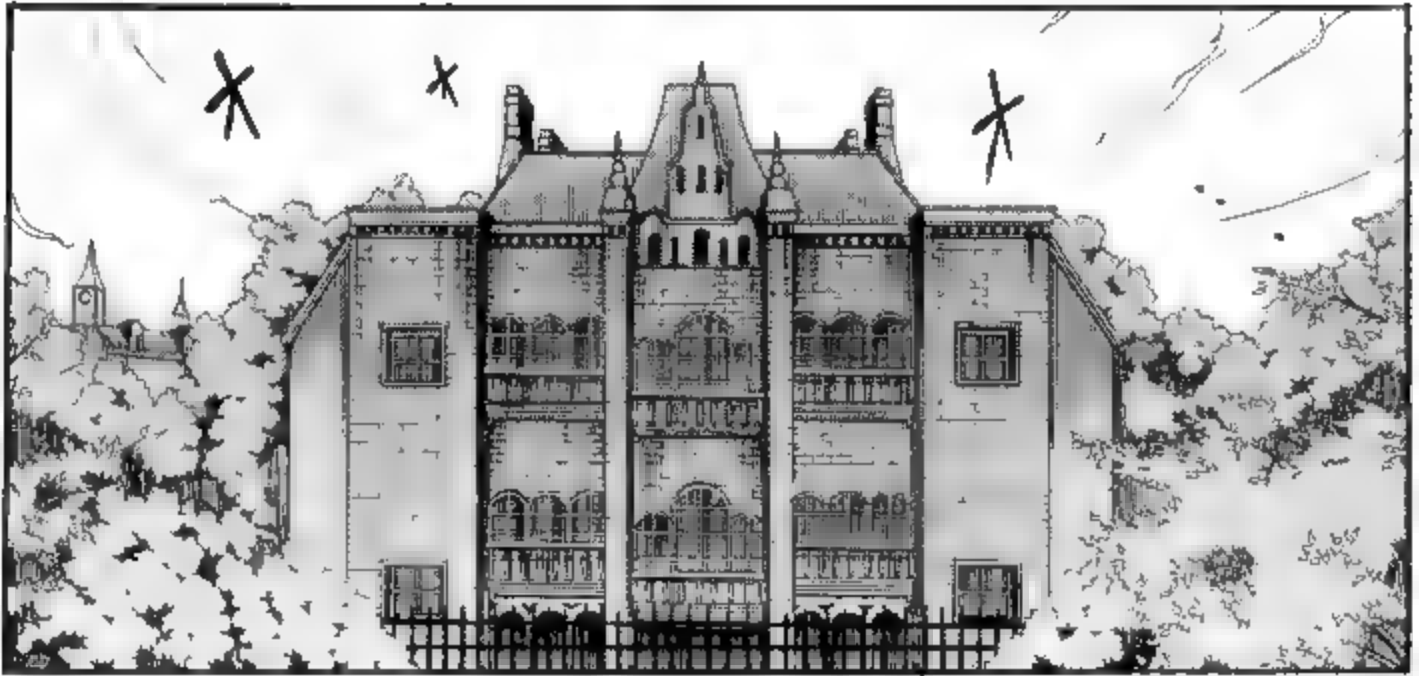
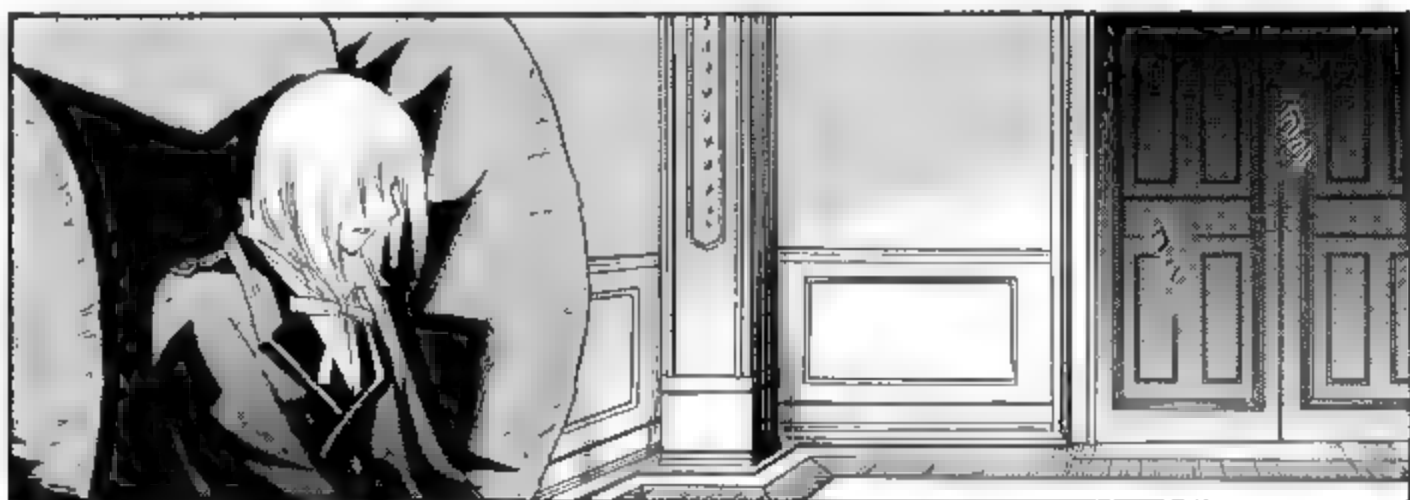
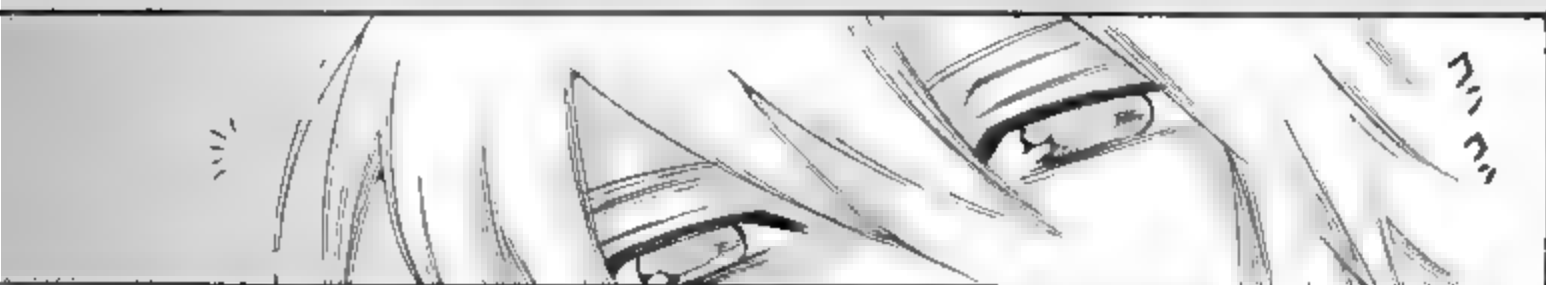
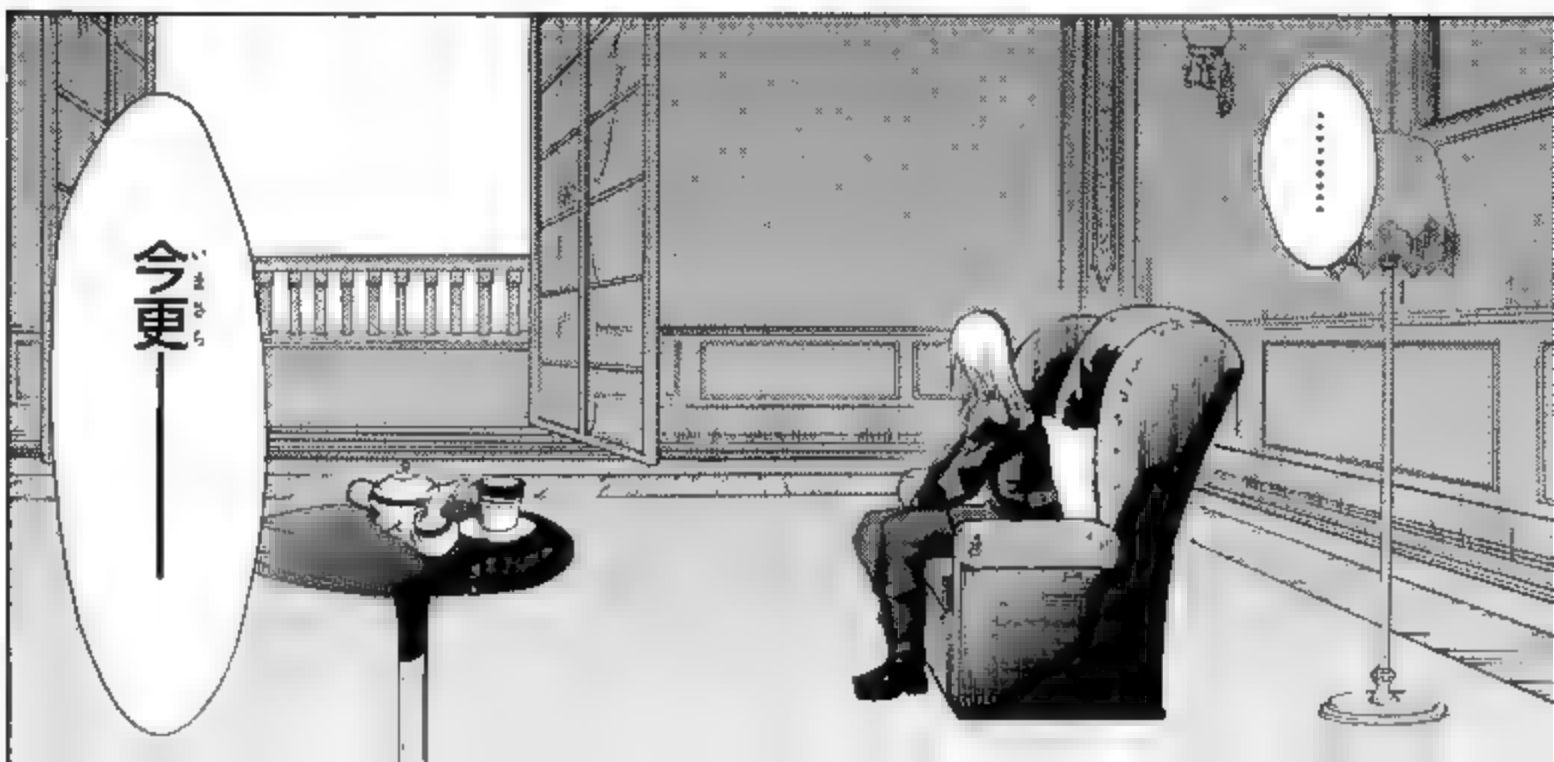
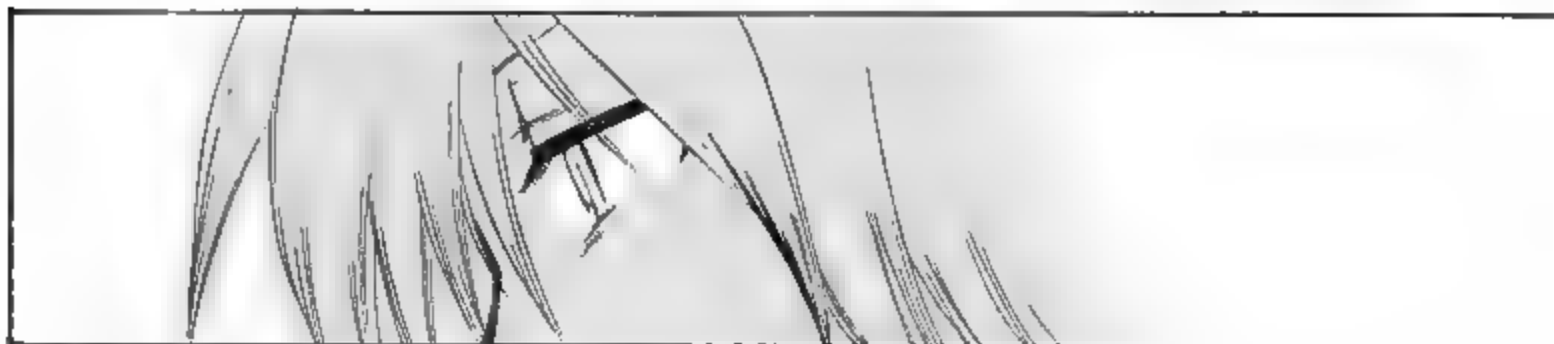
協力させて
下さい

よめない

兄じゃん
兄じゃん
兄じゃん
おいで
セイリュウ

はい……!!
コッ コッ
セイリュウ
エマ姫がお呼びだ
今行く

今更──
……

「セイリュウ・ルー」には
もうついて行けない」？
ええ
彼のやり方はエスカレートしている
たとえば――
!?
星石が…埋め込まれている!?

このような
半端な創造物を
造り出す事も――
厭わない男に
なってしまった
Chapter 8 暴走

そりゃア!!!
ハア!!
……

そうだな
一度
距離をとって
立て直せ
ハハッ!!
若いクセに
弱気ですねッ
攻撃
あるのみ
ですよ!!

我々〝星石持ち〟に
防御など
要らないでしょう!!
見たまえ
この――
破壊力ッ!!
ブォン!!
この力!
なんと爽快!!
ガラ…
私は今
凡人とは違う
特別な存在と
なっているッ!!
!?

うグアあ!!
大振り
隙だらけ

クッ…
ハハ!!
チョロチョロと!!

スカッ…
!!

ぐおおお
チョロチョロ
するなあああ!!
ザン・ルー
遊ぶな
早く決めろ
キッ
…誰かに
埋まってた
星石なんでしょ
コイツが
振りかざしてるのは

!!!
ッツ…
あぐぅ

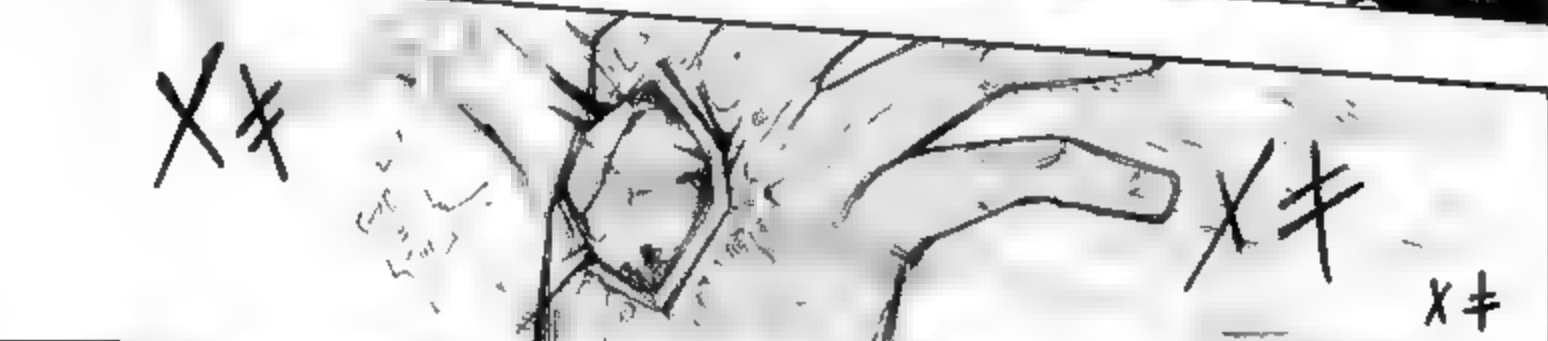
破壊を楽しむ奴が持っていいものじゃないんだ!!

があぁ!!!

ドチイ

メキ

メキ

メキ

この星石はカンパニーの特殊技術によって埋め込まれている!!
脳神経と直結しているのだよ!
完全に私とつながっているのだ!!
もう私の星石だ!!
奪おうとしてもムダだぞッ!!
うわ

連打…！
波動の攻撃に切り替えたか

ザン・ルー

いい

好きに撃たせておけ

ダァァァァ

は…
はァ
ガクガク
は…
のし上がり…
拝められ…！
ハァ
ガク
ガク
ガク

ドドド
フハ…
ハ…
ハハハハハ
ガク
スゴい…
私は
ガク
ガク
ハッ
ハア
ハア
ガク

ガァ
ガァ
ブシュ
ガァ
ガァ
ガァ
ガァ
スゴ……
い
ガク
ガク
……
「星石が脳神経と直結」
……？
いずれは・・・・・アタマが壊れるのを前提に造られてんじゃねえか
〝新型〟は一時の戦力強化のためだけの捨て駒だ

終わりだ

行くぞ
ザン・ルー

今に世界が

ひれ伏して

ザン
それは
力とは呼ばない
愚かな
暴力だ
覚悟を持って
使わねば
星石はいつか
お前を見限るぞ

星石(ほし)に

見限(みかぎ)られたんだ

……
はっ
…痛っ…！
ミ…
ミセリ！
ガバ!!
ミセリ
大丈夫か!?
……

あ……？
ホッ
よ
良かった…！
起きられるか？
ケガは？
ああ…
大丈夫よ…
ゴメンなさい
私がちゃんと
盾を使っていれば
こんな事にならなかった
のに……
反応が遅れて
そうだ
私は
!!!

それなら二人にも聞いてほしい話がある

ス…

また
負け
こ……
この野郎オオオオッ
ガッ
!!?

セイリュウ・ルーの親友だそうだ

Chapter 9
目的

ギュッ…

味方
──のフリをした敵
──と見せかけて実は内通者
複雑なことで…

まァいい
デカい手土産だ
ローラン良くやった
は

セイリュウ・ルーの親友であったと語っています
ポソ
へえ

あの性悪と
友達やれるんじゃ
ロクなもんじゃ
ねえな
来い

さてと
ぐぐ…
え───……
何から
聞くかね
その前に
ローラン
は
その状態だと
そいつも
話しづらいと
思うんだが
ジャキ
…
しかし
この者は
波動を使えます
隊長に
何かあっては
何もねえさ
ダグ・フォルクス
俺はお前らと
違って天然物の
"星石持ち"だ
お前に俺は
殺せない

だが俺はお前如き一瞬で塵にできる
格の違いを理解し 従え

…………
…
……ザン君
こっちで
座って
待ったら
どうですか？
………
ザン・ルー
あの
デカブツは
どうした
星石を
複数
持ってたろ
戦うのに
苦労しな
かったか

あんな偽物――……

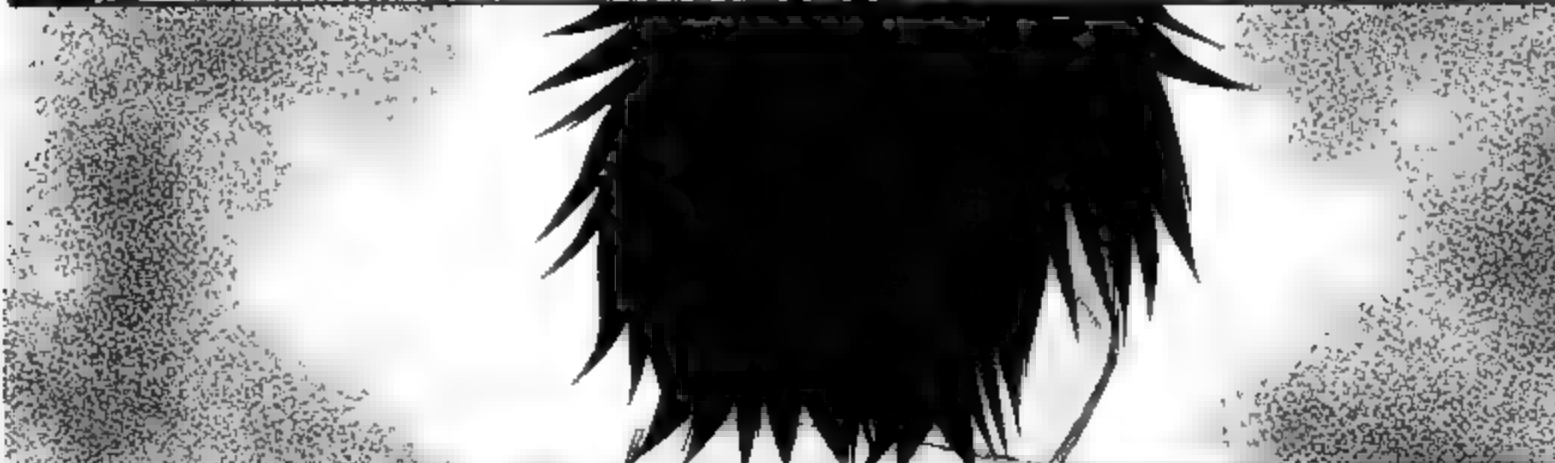
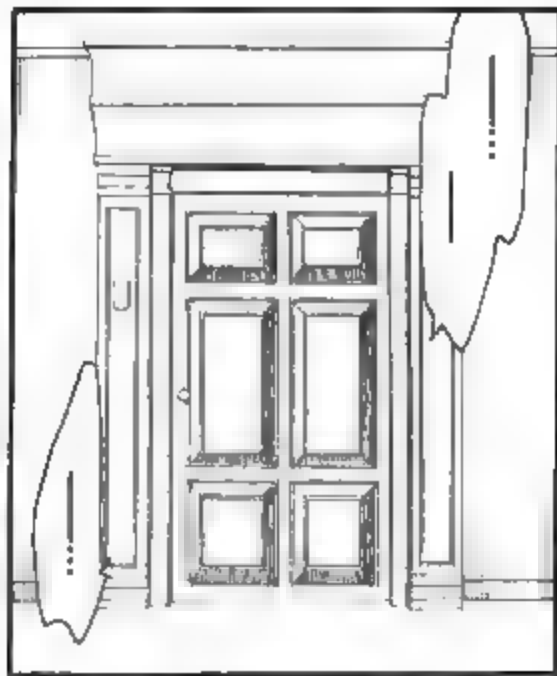
俺一人ですぐ片付けた

ダグ・フォルクスの持つ情報によって敵方の目的がわかった

ヤツらの目的地は中原最古の遺跡だ！

中原最古の遺跡とは…？
あ…
カルセドニーの西側にある遺跡ですね
通称〝誕生の丘〟

そうそれだ
一千年以上もの昔の遺物で
現在地図上に正確に表されているのはこの〝誕生の丘〟のみ
ヤツらはそこである儀式をしようとしている

儀式…⁉
〝中原の神話〟をご存知ですか

中原の４国――
セレニティス・カルセドニー・
アンバー・オブシディアン…
これらの国は
もともと
セレニティスの皇族が
一つに統べる大帝国だった
という――
子供の頃に
聞きましたが…
そんな
おとぎ話
今何の
関係が
あるんだ！
それが
おとぎ話とも
言い切れねえんだ
皇族
ならびに
近衛師団の
お偉方は…
一千年以前の
古地図は
人目に触れぬように
ひた隠しにしている

〝中原の神話〟によると
大帝国分裂時に他の3国がセレニティスから巨大な星石を持ち出したんだそうだ
力を分散させ自分達の領土を侵されぬように

もしもそれが本当だったら？
今も3つの国のどこかには人知れず巨大な星石が眠っている事になる

……まさか…そんな話
敵は神話に描かれた星石を回収しようとしている…!?

どうかしてるよな
奴らの目的は古の大帝国復活だ

セイリュウ・ルーら
三日月公団は
中原に散らばる星石を
セレニティスに集め

他の3国を
再び 我が国の支配下に
置こうとしている

ガタ…
何故そんな事を？
水面下で他国のセレニティス侵略の動きが活発になっているんだ
今のセレニティスの軍事力では間違いなく負ける
我が国が潰される前に敵国を統一する…
それがセイリュウ達にとっては「国を守る」事と同義なんだと思う…
守るだと……!?
だが今のセイリュウは……
じゃあ何故！姫を攫ったんだよ!!
ビクッ

ザン君…
星石の場所を探り当てるにはセレニティスの皇族の力が必要だから
……
何故!!
何故 父を殺す必要があったんだよ!!!

君の父さんが セイリュウの前に 立ったから
邪魔だった ただ それだけだろう
あの場に 居合わせ なければ 死なずに 済んだ
邪魔 だった から？
石ころじゃ ないんだよ
何が… 守るため だよ…
ドン…
大帝国とやらの 復活のために 現在の国を襲って

姫を攫って!!
父さんを
殺して!!
俺が信じたもの
全部
全部裏切って!!!
畜生……!!
あの野郎……!!
……ま
そんな訳だ
明日にはヤツらも
〝誕生の丘〟を
目指して動き出す
俺達は先回りを
試みるぞ
いいな
……了解
ザン・ルー

お前は
コイツを
見張っとけ

この部屋だ
ルー准尉
後は頼む
…はい

……

ボウド隊長の時の
警戒とは雲泥の差
ですね

あの方は
そこまでして
守る価値が
あるんですか？

あなたが何も
話さなくとも…
我々の行き先は
〝誕生の丘〟だった
！

読んでいた――!?

まさか…

策を成功させるのは

何より冴えた勘を持つ者ですよ

なんなら私が問い詰めます！
ガサ…
お前さあ
何をそんなに焦ってるんだ？
手柄でも立てて誰かに認めてもらいたいのか？
アルジュナ一族は武勲を何より重んずるらしいから気持ちはわかるがな
力んで失敗したんじゃお父上に嫌われちまうぞ
……………
ギリ…
バッ
フェイ！
点取りばかり意識しすぎちゃいかんよ

お言葉ですが
隊長
キッ
「認めてほしい」という
気持ちは誰もが持って
いるもののはずです

その気持ちを
原動力に努力
している者に対して
「点取り」
だなんて
まるで
卑しい事の
ように
言わないで
下さい!!

至極
まっとうな事で
あるはずだわ!

クロス?
ああ
あの妾の子か
血が血だ
ロクな働きは
できんだろうよ

クロス
このやり方では
手柄を立てる
前に抹殺
されるぞ

至極まっとうか

ありがとう

？

いや 俺は点取り自体は悪いと思ってねぇよ

やるなら開き直ってやらねぇと本人がしんどいだけだと思ってな

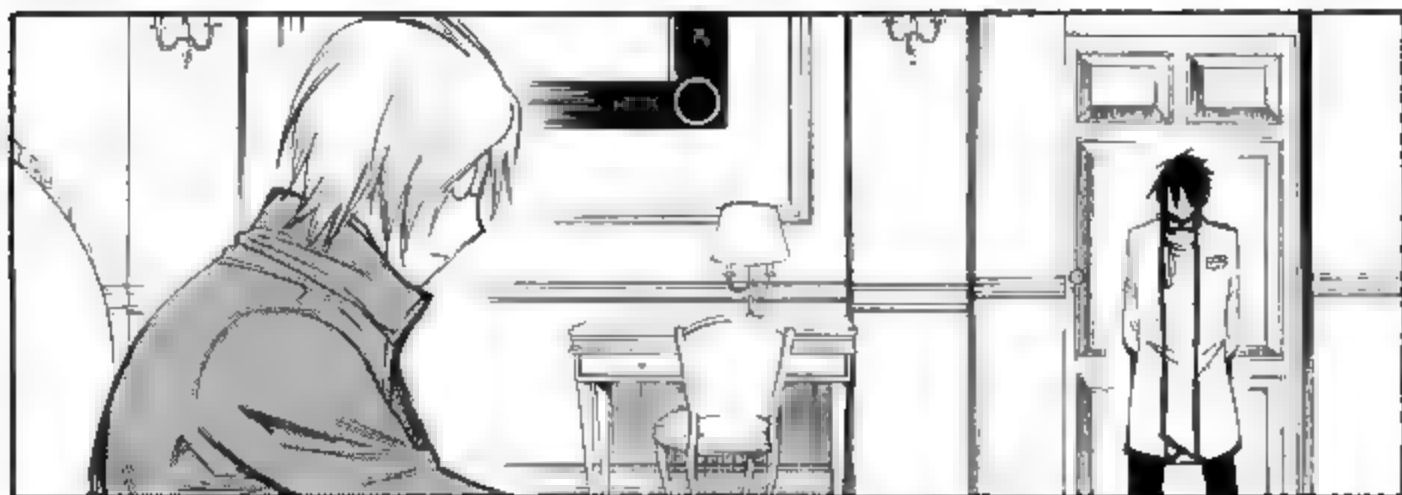
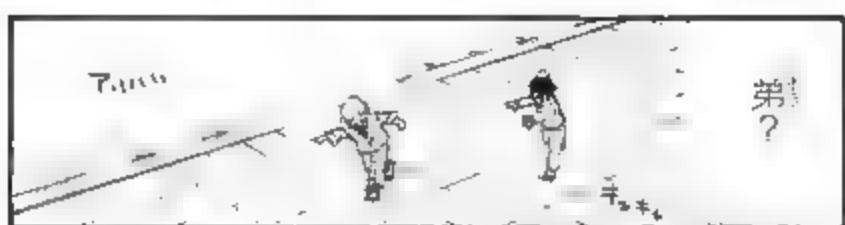
開き直りすぎると俺みたいになるんだが

……

ふざけろ

〝壊す〟も〝捨てる〟も、
手前如きが勝手に
決めて良い事じゃ
ねえよ

セイリュウ・ルー

セイリュウ
セイリュウ
どうした?
…弟だ
弟?
素直そうな子だな
アレは良い

嘘がない
心がそのまま表に出る
唯一信頼できる人間だよ

心が
そのまま表に出る

私が嫌いなんだな

当然だろ！何が可笑しい!!
いや
昔はセイリュウも君と同じだったんだよ

正しくて
真っ直ぐな
奴だった
信じるに足る
理想を掲げていて
だからこそ
あれほど大勢の
人間が奴の下に
集まったんだ

そんなアイツを
おかしくした
ものがある
僕はどうしても
ソレからアイツを
助けたいんだ

助けたい……!?
ハ…!
冗談
言うな!!

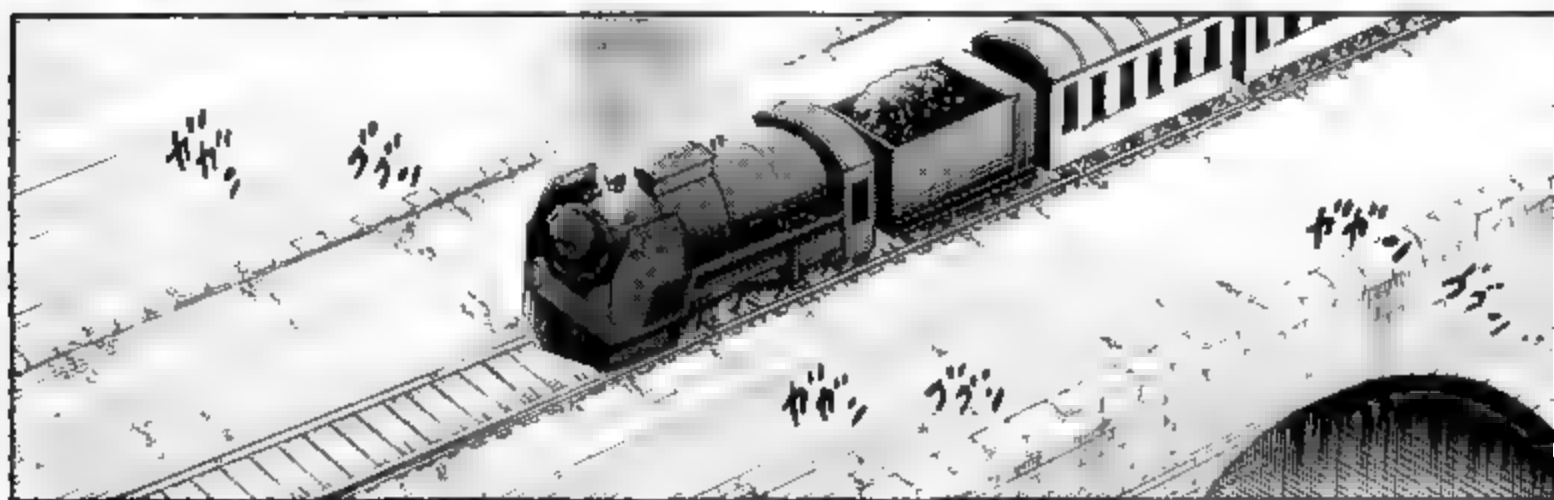
昔なんか
もう関係ない!!
あいつは
たくさんの人間の
運命を変えた…
勝手に!
自分の理想の
ために!!

何を聞こうが
俺はアイツを許さない!!

ダグも殺られてシマッタかね？どうするセイリュウ
ゴゴン
ガガン
ああ…

奴は頭も回る
〝新型〟の中でも拒否反応が少なく能力を発揮する
失くすには惜しい男だったが――
セイリュウ

ガガン
ゴゴン
ガガン…

只今
まったく
大事な話の途中だというのニ…
女の相手ばかりしていては大事をしくじるゾ
ダグが戻らないのね
ええ
惜しい男でしたが…
消すしかない

……
何だ──⁉
策を成すのは
冴えた勘を持つ者です
ああ
セイリュウ
お前もまた
〝策を成す者〟であるという事か──

Chapter 10 儀式

殺すな！
捕らえろ
は！
……！
………
間に合わなかったか
ええ

何事ですか!?
!
…手当てを!
……
……すまない
セイリュウは…
本当に変わってしまったんだな…

ギュッ…

着きましたよ
姫

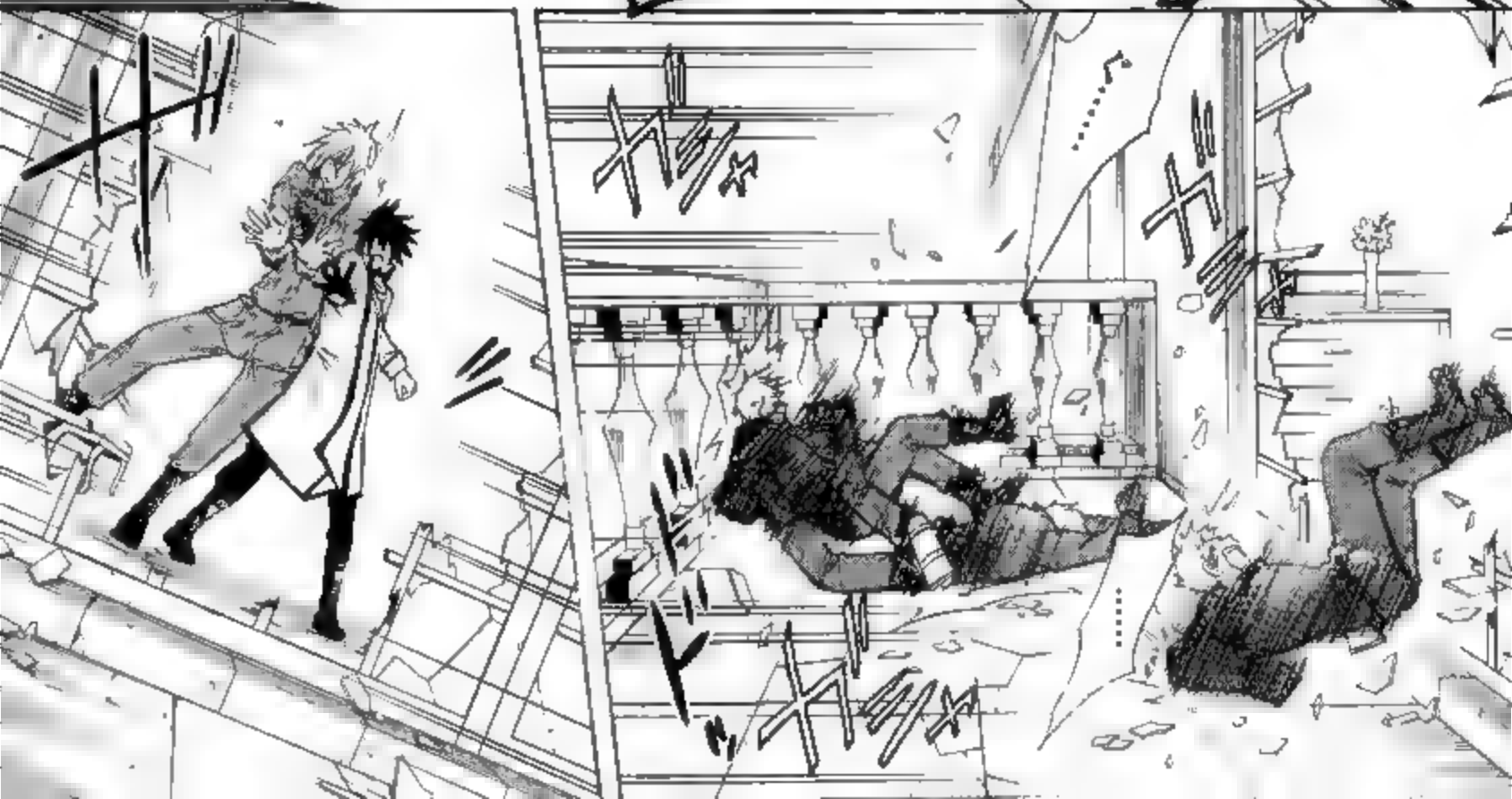
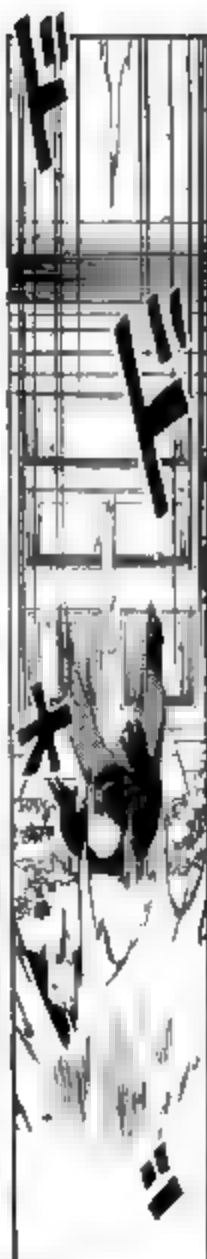
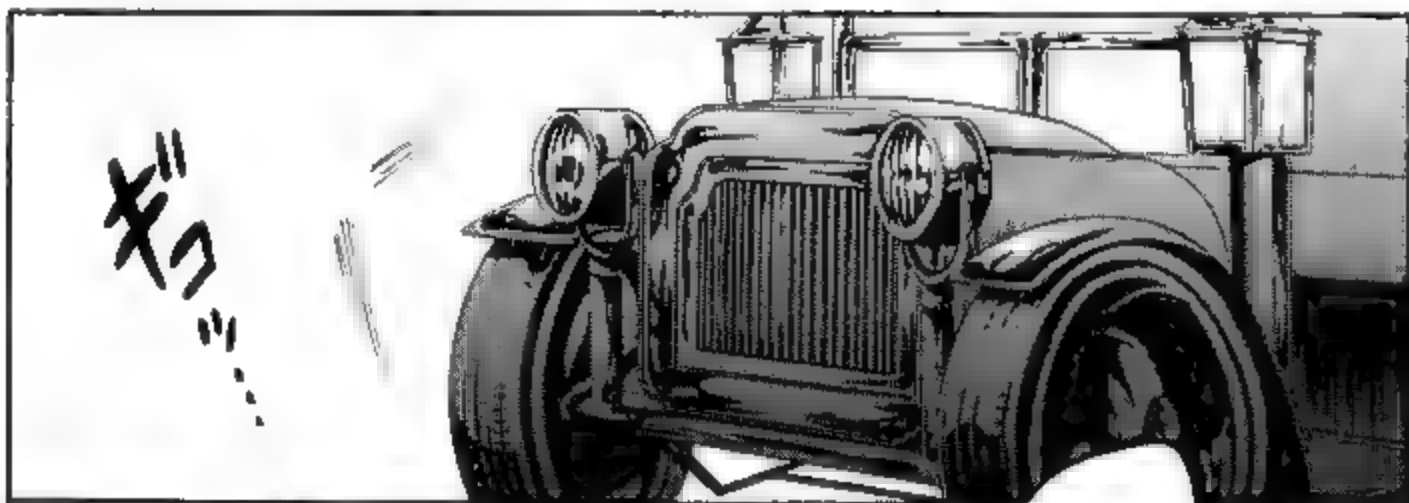
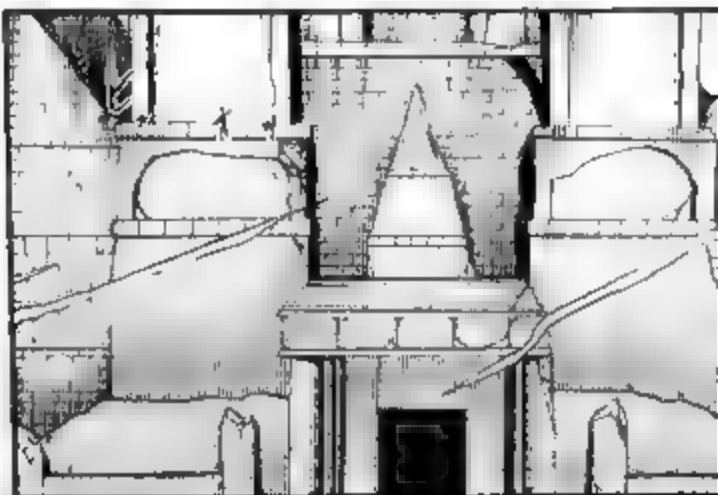
キレイね

すぐに貴女のものとなりましょう
そうね
入り口の上の……
あの塔はいらない

ブロロロロ…

急げ！
奴らももう動いてるはずだ！

余計な事かもしれませんが…
その星石もう使うべきではありませんよ

星石のエネルギー負荷のせいで両肩までボロボロ…
手首のあたりまではもう感覚も失われているのでは？

人工的に〝星石持ち〟を造ろうなんざバカな事を考えたもんだよ

ムリヤリ埋められたのか?

いいえ……望んで第一の被験者になったんですよ

セイリュウの役に立ちたかった

まだ子供の頃でしたが親族が罪を犯して周りから白い目で見られていた僕に

唯一普通に接してくれたのが彼だったんです

君が犯した罪じゃない

隊長
この捕虜は置いていくべきです!!
道案内に必要だから連れていくのは決定だ
だが一応理由を聞こうか?
この男はまだセイリュウ・ルーに心酔しています
途中で裏切るかもしれない
ああ
初めの頃フレイル・アルジュナがお前に抱いていた疑いと同じだな?
…ああ
はあ
そーですね

大丈夫だよ
おかしなマネをしたら その時捨てれば良い

……

…変な気おこすなよ
セイリュウはお前を見つけたら迷わず殺すぞ

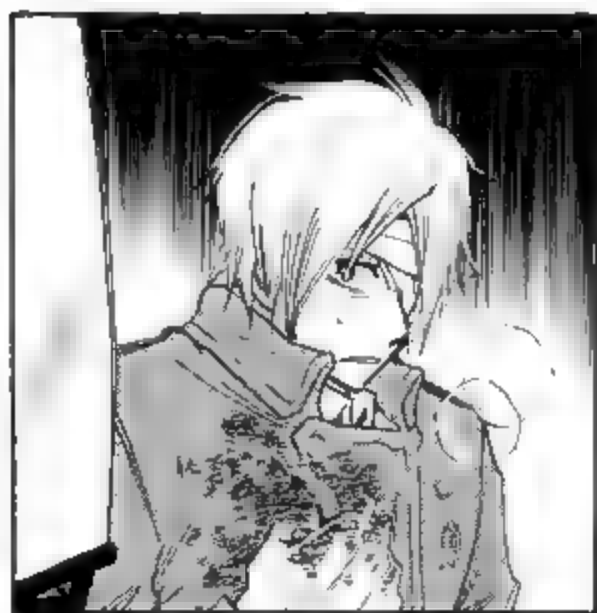
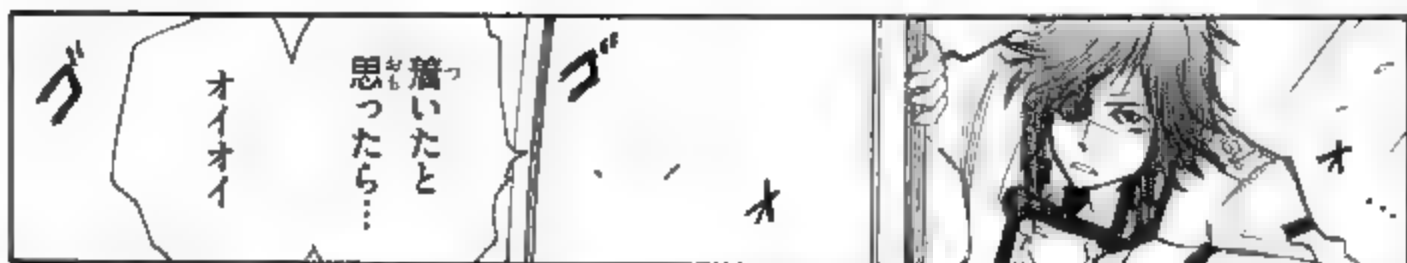
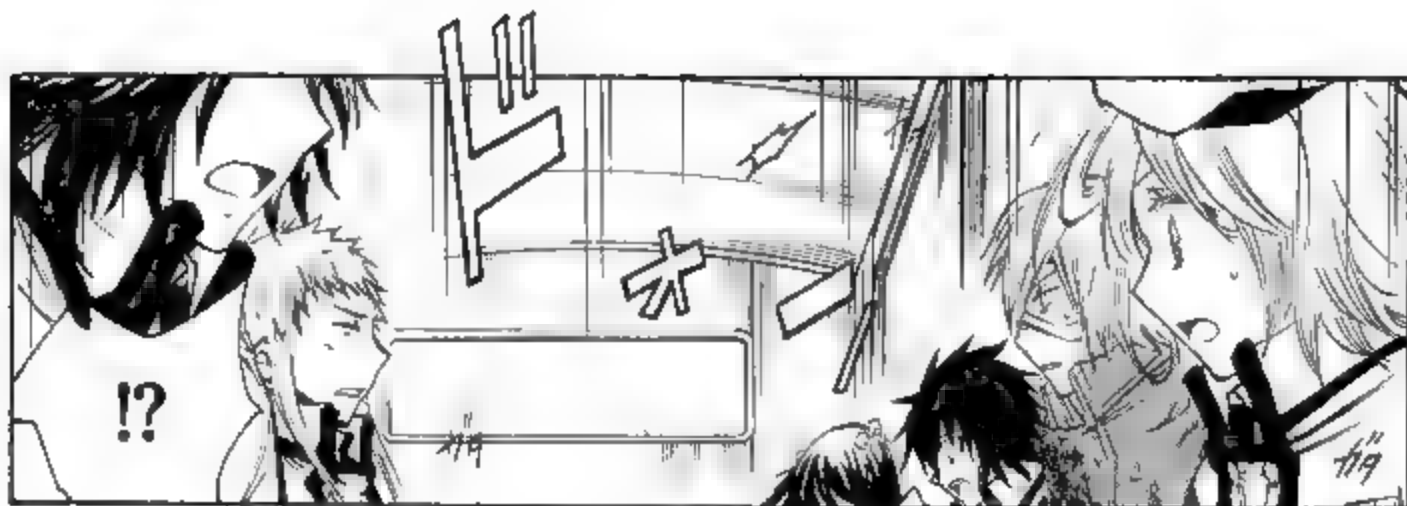
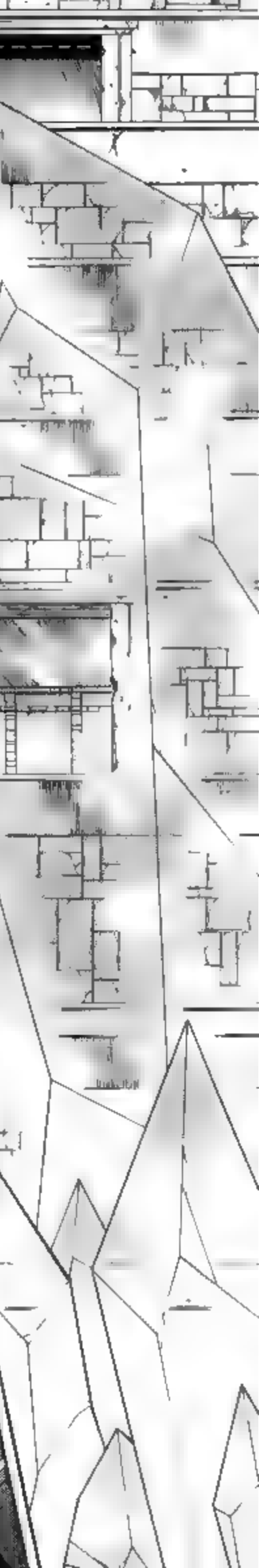
アイツはお前が思うような立派な人間じゃない

歴史的な遺跡を爆破かよ…

ゴォォ

何とも…美しい音ダナ
アレは姫の歌声に共鳴しているのか?
ああ
この音は他の地の巨大星石にも"響鳴"を起こす
どんなに離れた場所であろうが…
姫がその音を感じとれば場所を割り出せる
セイリュウ様
ネズミか?
ああ

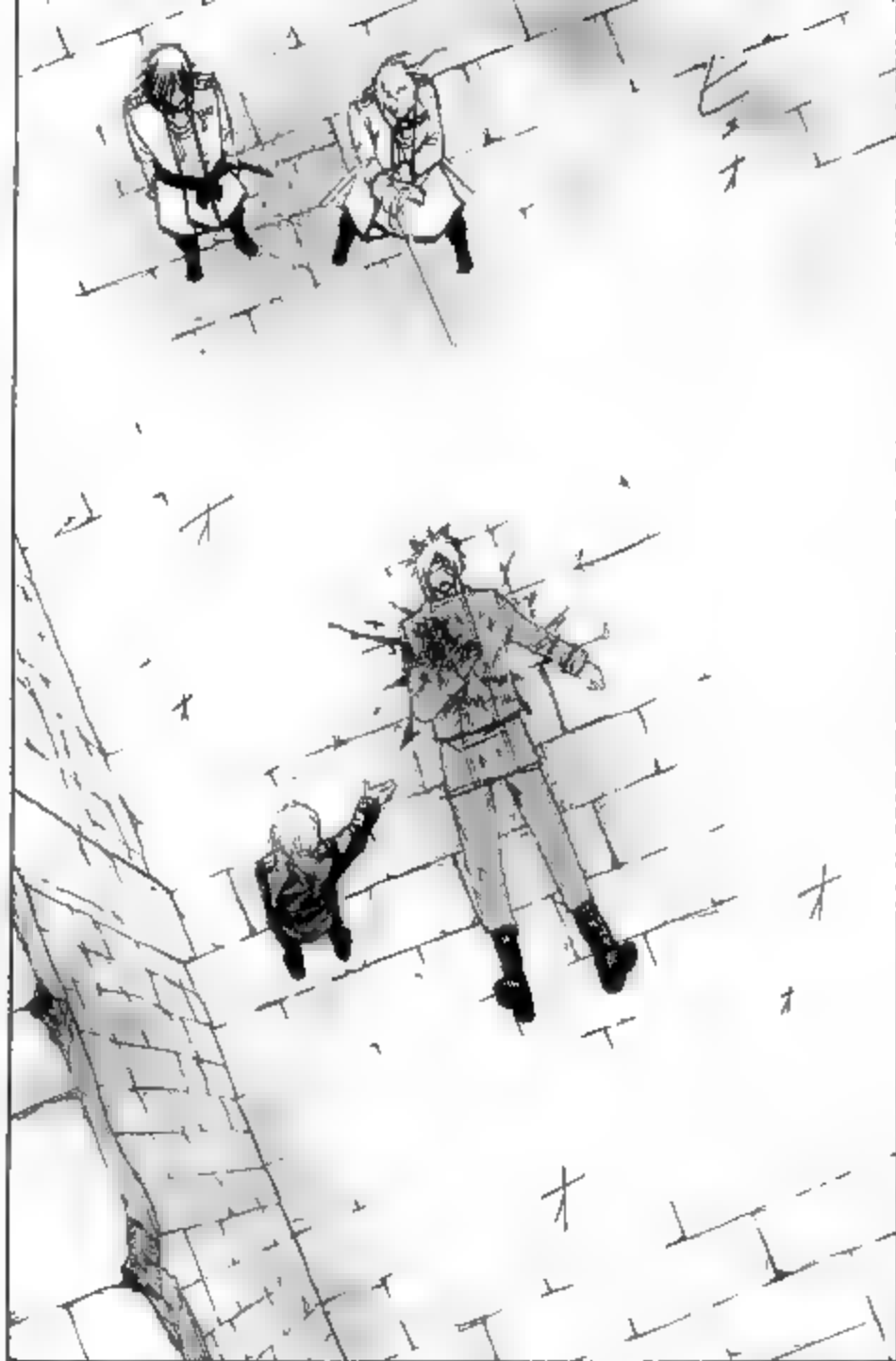
ここを頼む
ロウ
ギュ…
この場で全て終わらせてやる

ドド
できるだけ
ハデに動け
ドド

くそォオ
止まれ!!
!?

気安く
触れると
思わないで
あああア!!
敵がそちらに
人員を割いて
いる間に
俺とローランは
道案内をつけて
敵の中心部へ

そして
ノレイル・アルジュナ
お前は
単独行動だ
ザッ
ザッ
重要 かつ
危険な任務だが
やれるか?
やって
みせます
今度こそ
……!!!
こちらの通路は
下調べをした時に
僕が見つけました
カンパニーの
人間は誰も
知らないはず
?
どうした
!!
下がって!

セイリュウ・ルー

げはっ…　がっ…
……
もう…
ゲホッ…
本当にダメ…なのか…
戻ってきては…くれな
エマ姫のいいな…り…

見事な鬼畜っぷりじゃないか
親友であった男を問答無用で手にかけるか

やはりお前――
エマに染・ま・っ・たな？

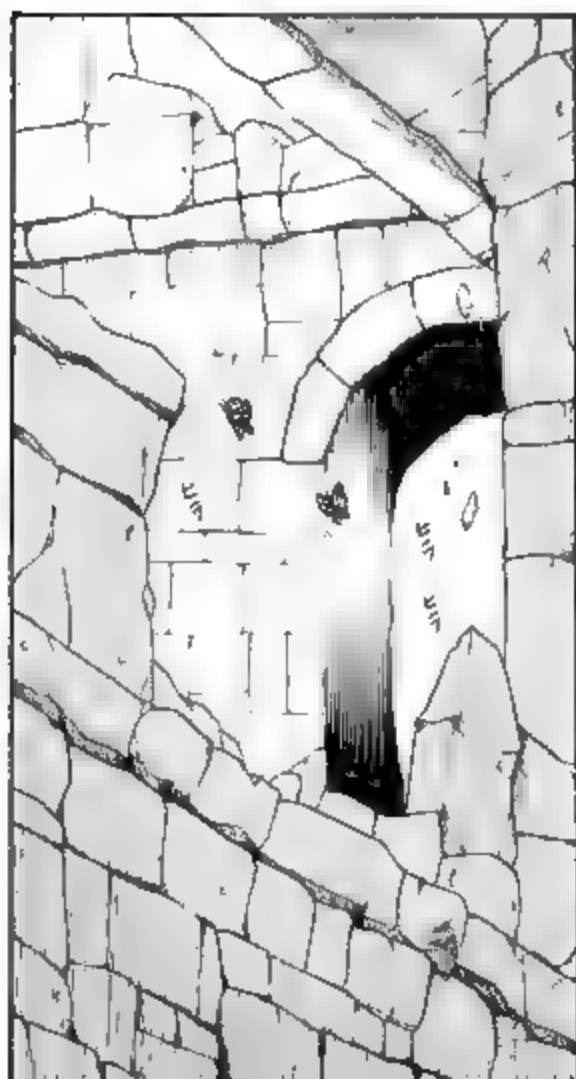
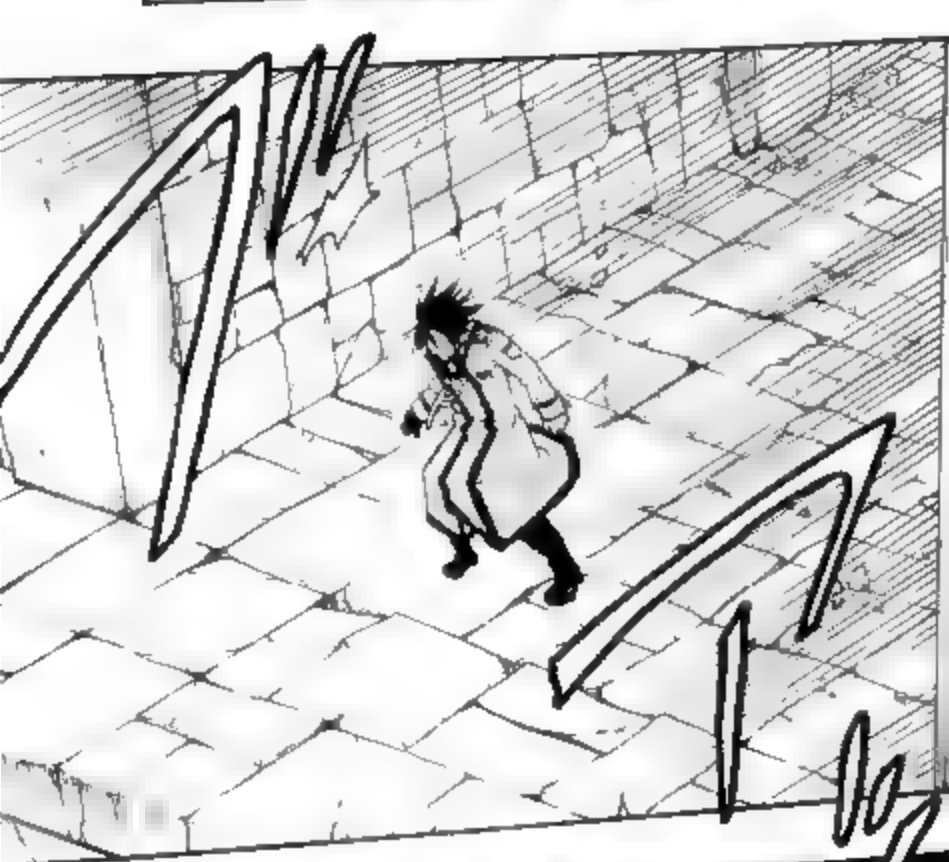
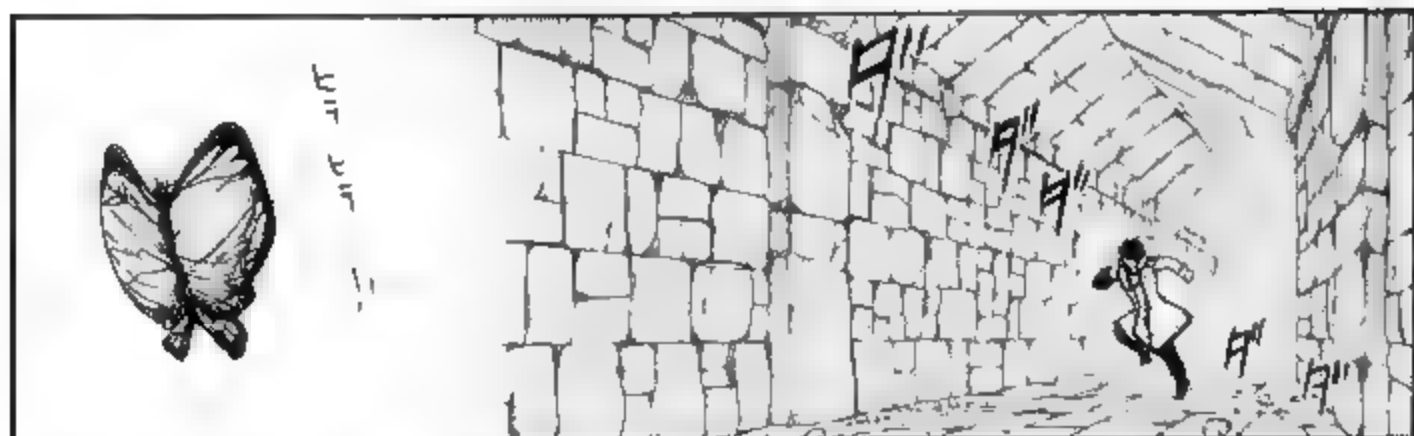
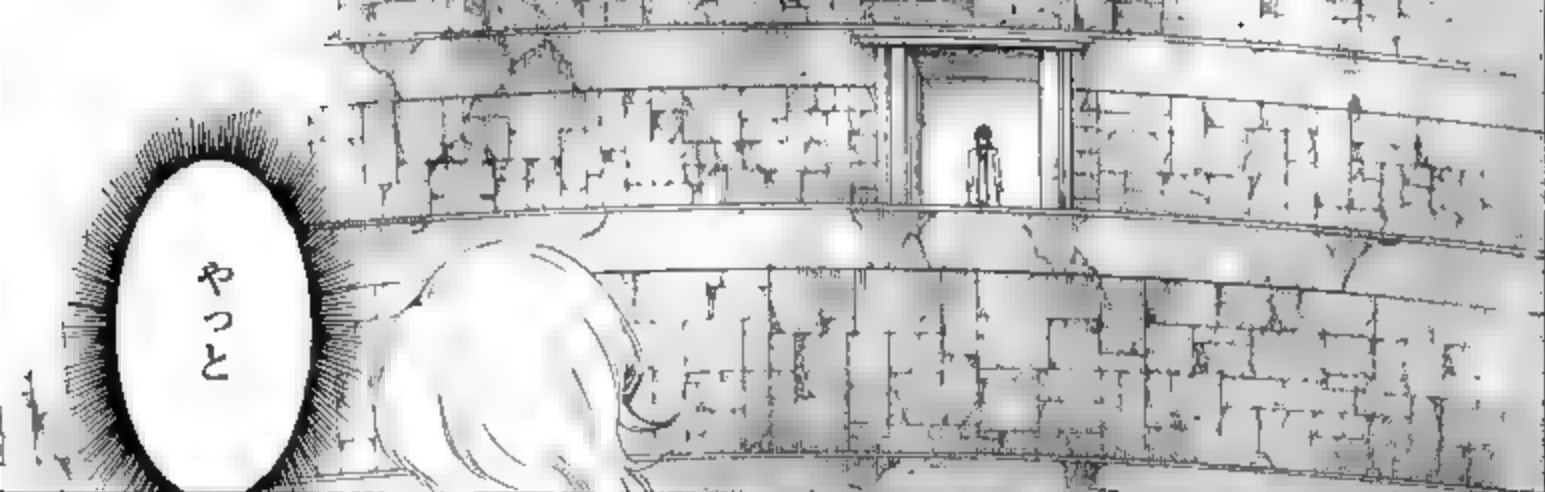
……!?

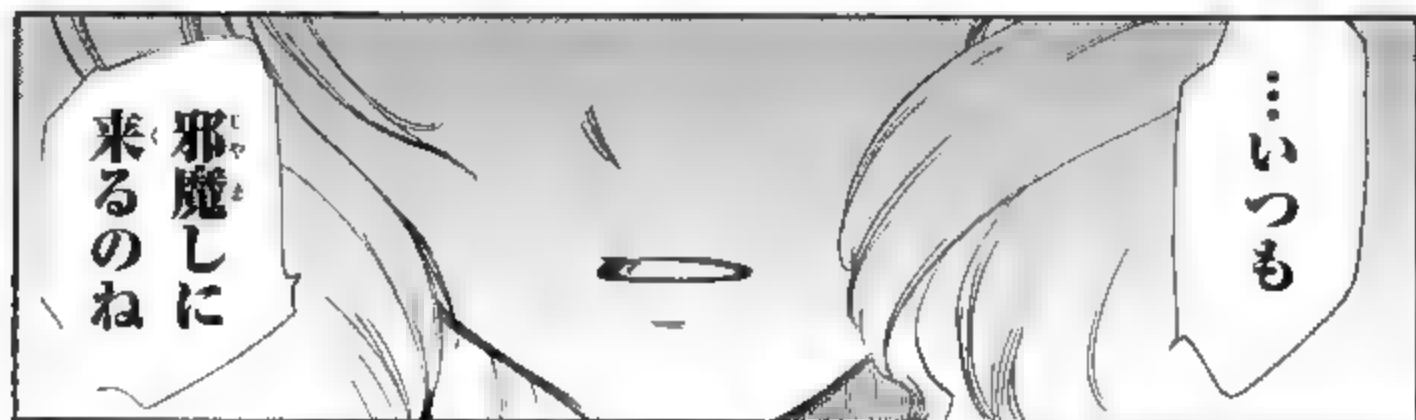
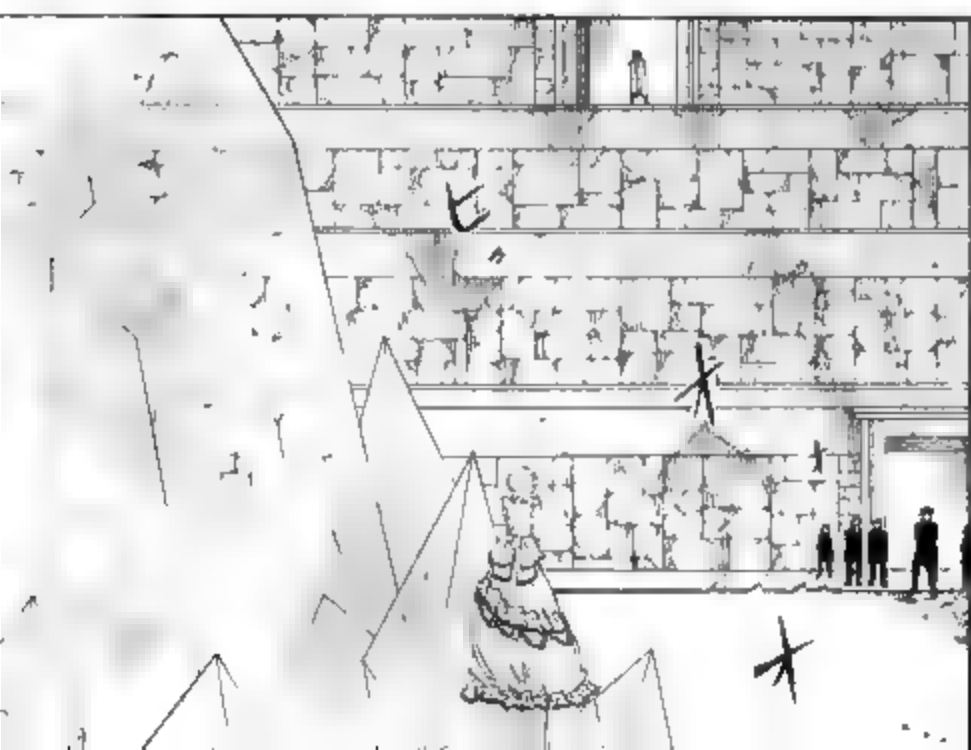
こちら側の敵はほぼ殲滅したみたい
ハァハァ

隊長達と合流しよう
ええ

……
エマ姫……
え？
ちょっ
ザン君!?
ダダダ
ハァ
ハァ
エマ姫
ハァ
ハッ

エマ姫!!!

ダッ
ダッ
ダッ
ダッ
ダッ
ヒラ ヒラ……!!
エマ姫……
ダッ
ダッ
……エ

エマ姫!!
Chapter 11 エマ

やっと
やっと
追いついた
…いつも
邪魔しに来るのね
?
ドウした?

エマ姫…か？
もうすぐ私の望みが叶うの

エマに染まった？

何の話だ？

とぼけるなよ
アレは毒性の強い姫だ

近づきすぎておかしくなった人間が
近衛師団には何人もいるぜ

それとも自覚もなくなるほどに

操り人形と化しているのか？

私の望みと
彼女の望みが
たまたま同じ場所に行き着くものだった

ただそれだけだ!!

投降しろ!
時間がない!
退け!!
グゲ…
!?

……!!
な……
これは
っっ…
武器無しで受けきれるものなら受けてみろ

ぐアぁ!!
何だこれは
ただの星石の力ではない
溶かされるような高温――

魔女の狗が!!

波動も曲げるのか
ローラン下がれ
承服できません
物理攻撃は通用しねぇよ

ここで消えてもらう!!

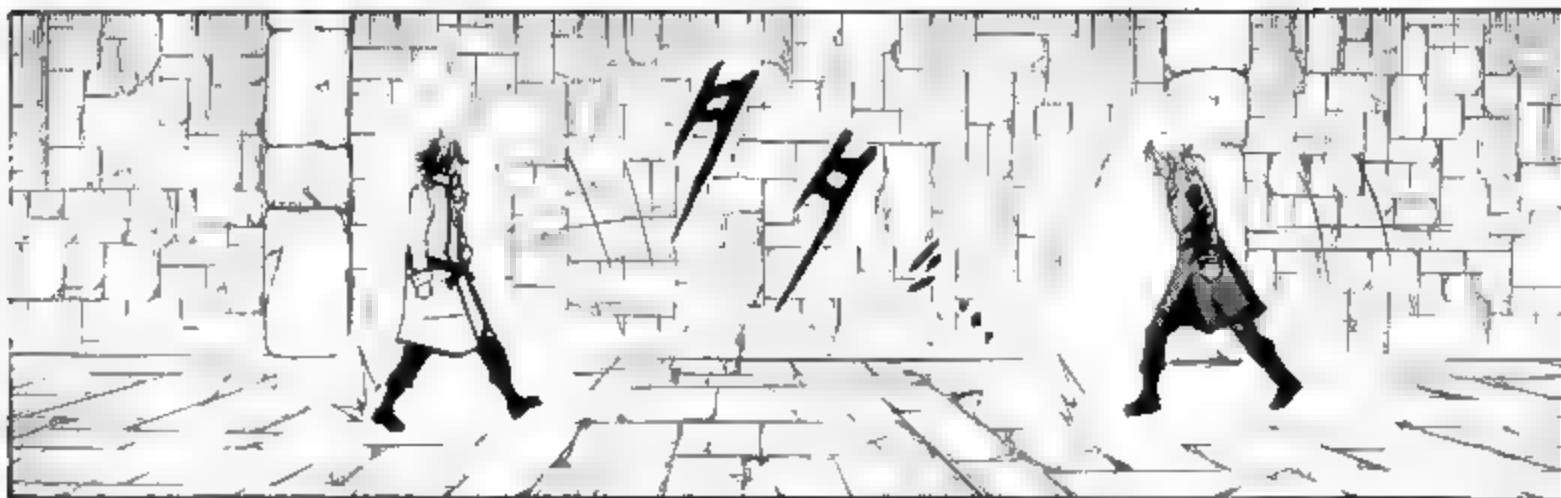
ドッ

おっと

ザラララ

エマも…閉じこめても閉じこめても壁をサラサラに崩しては抜け出していたな

記憶もとぎれとぎれに徘徊し側に寄った者はおかしくなる

あの気味の悪い娘とお友達になれるとは……さすがだな

寄るな

やっと効いた！
伏兵ッ!!!

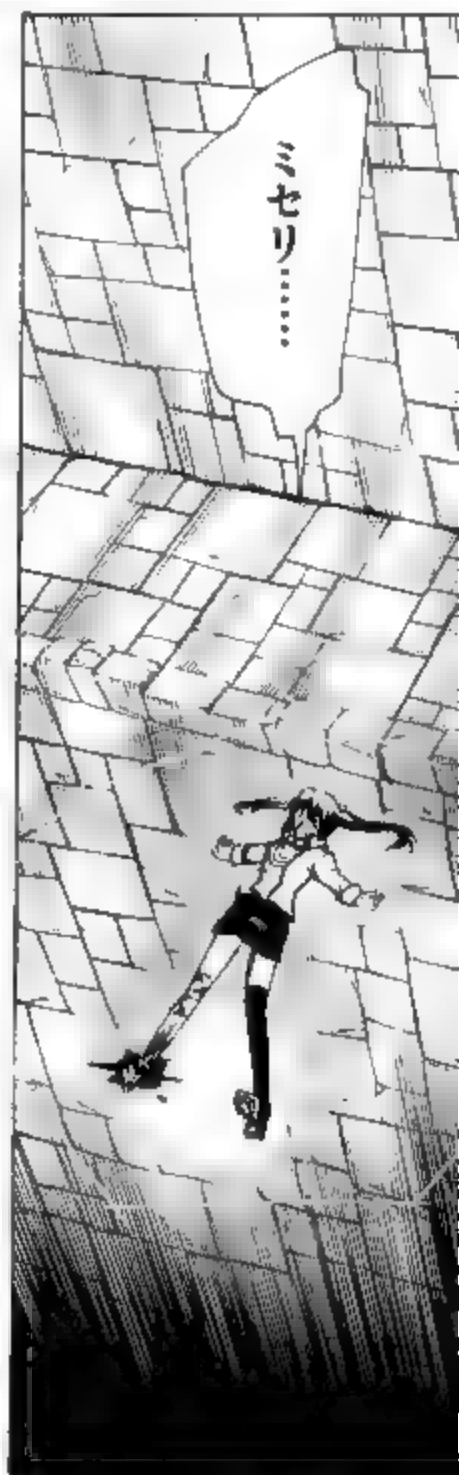
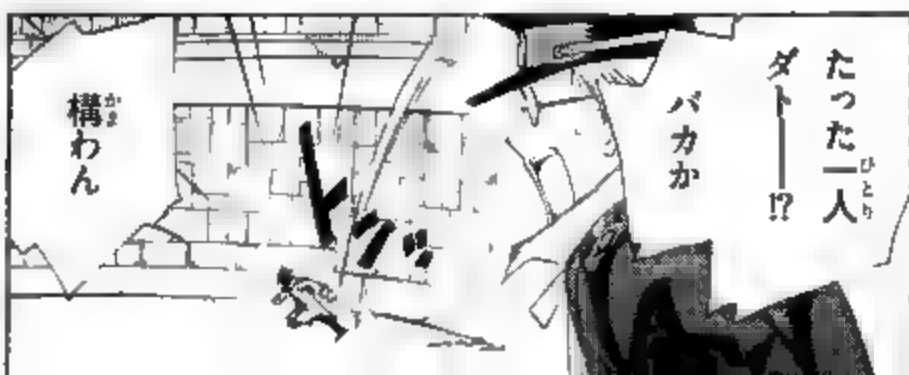
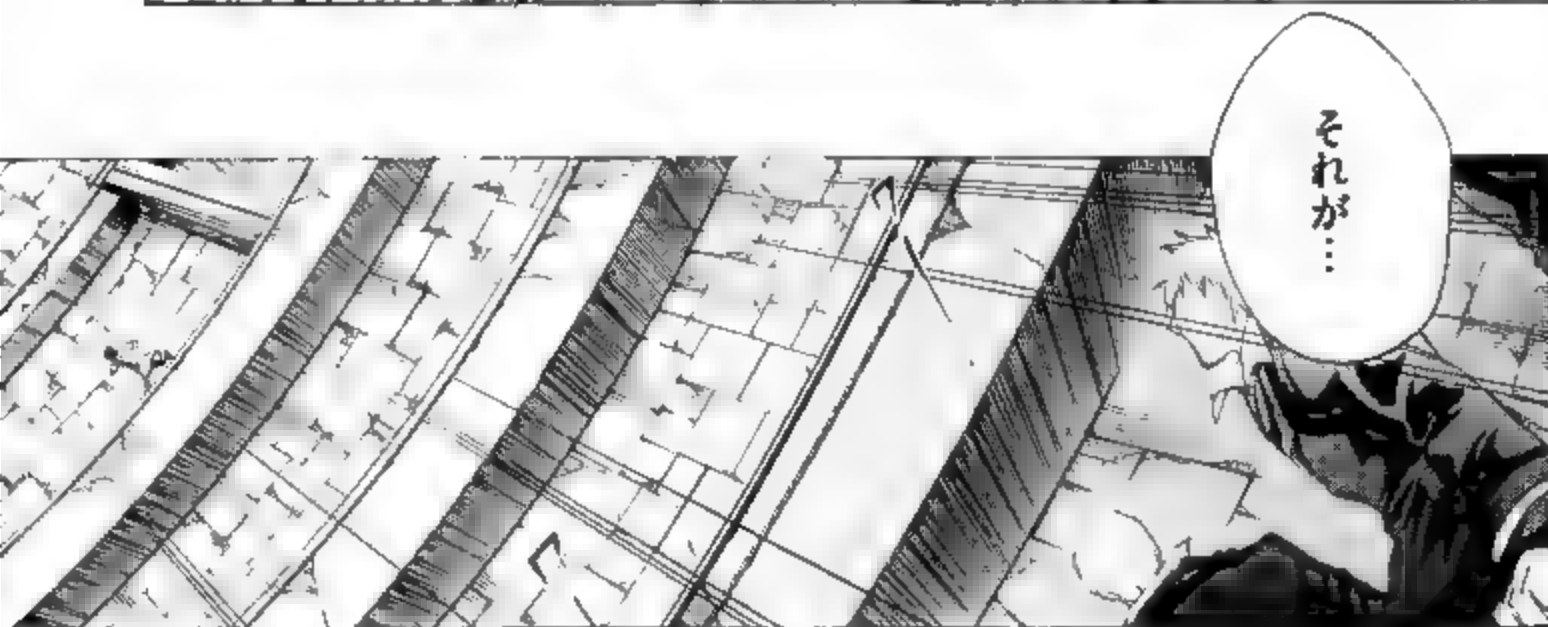
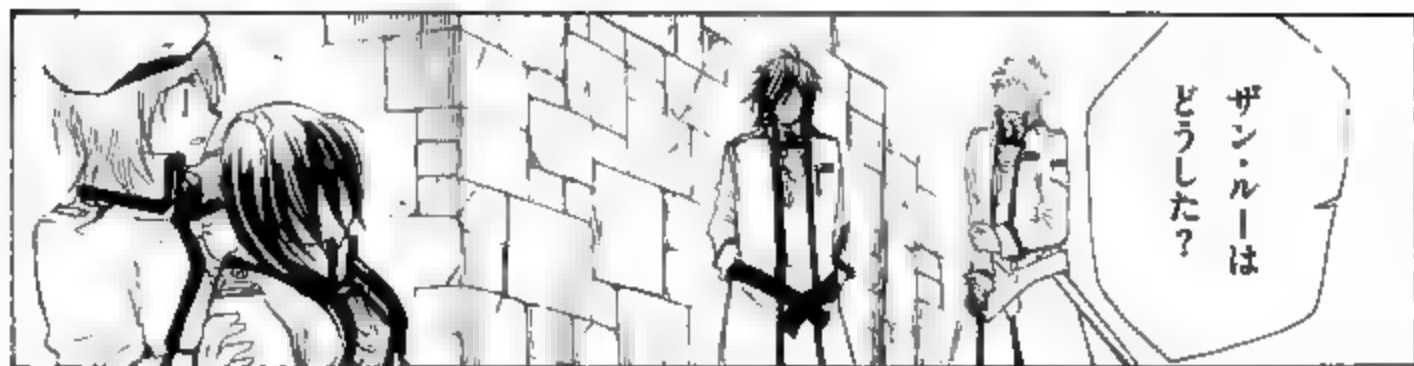
しまった…!!
ボウドの精神操縦か!!
……!!
波動だアルジュナ!!

痛っ…!!
波動で緩和してアレか!
アルジュナ!

足がこれじゃ
戦線離脱か
情けない
ザ
ドドド
でも
隊のために
……………
……?

フェイ!!
しっかり!
ミセリ……
!
しまった
セイリュウ・ルーが…!
まあいい
向かう場所は
遺跡の中心部
精神操縦も
しばらく有効だし
アルジュナの一撃も
効いたようだから
追うのは容易になった
やっと一矢──報いた
手当て
手当て~

ザン・ルーはどうした？

それが…

こっちへ来てもムダなのよ
あなたが知らなかっただけで
セイリュウに命じてここまで連れてきてもらったのは
他でもない私なの
あなたとは行かないわ
姫が企てた？
今までの事も
ザン・ルー
全部

ザン・ルー

そんなわけない
別人のはずもない
一体

エマ姫!!

エマ姫…
……エマ！
俺の名前を呼んで！
ドクン…

私を見つけてくれる人

エマ姫……

エマ姫

エマ！俺の名前を呼んで！
Chapter 12 セシル

どうして
泣いてるの

……消えろと
言ってるのに
まだ……!!

――!?
……
ザン…

…ザン
ポロ
ポロ
ポロ…
ザン……

あ……

エマ姫…
どうしたの
どうして
一緒に来て
くれないの
俺の知ってる
エマ姫だ…
……私
もう…
セシルを
殺して
ザン
お願い
セシルを
セシル？

また…

俺の知らない瞳の色になった

どういう事だ？

セシルっていうのは…

アンタの事なのか？

!!

あなたも
わかるのね・・・
一つの体に
二つの精神
他の人間は
いくら説明しても
解らなかったのに

視界が
晴れました！
うわっ

殺せ！
しかし…
エマ姫が
近すぎて…

多少傷がつこうが構わナイ
我々の目的ハ新帝国の建国なのでアッテ姫の護衛デハない
カチャ
……セイリュウ以外はダメね
セシルの存在を識ることすらできない
「エマはただの〝星石探知機〟用さえ済めば――
――殺して構わない」と思ってる
ザザッ

撃て 撃て 撃て
逃がすナ! ──今 逃がすくらいなら いっそ──!!
ダダダダダ
!!!

ぐはっ…
あ…

うあぁぁあ

一千年の眠りから
ようやく解放
されるのよ

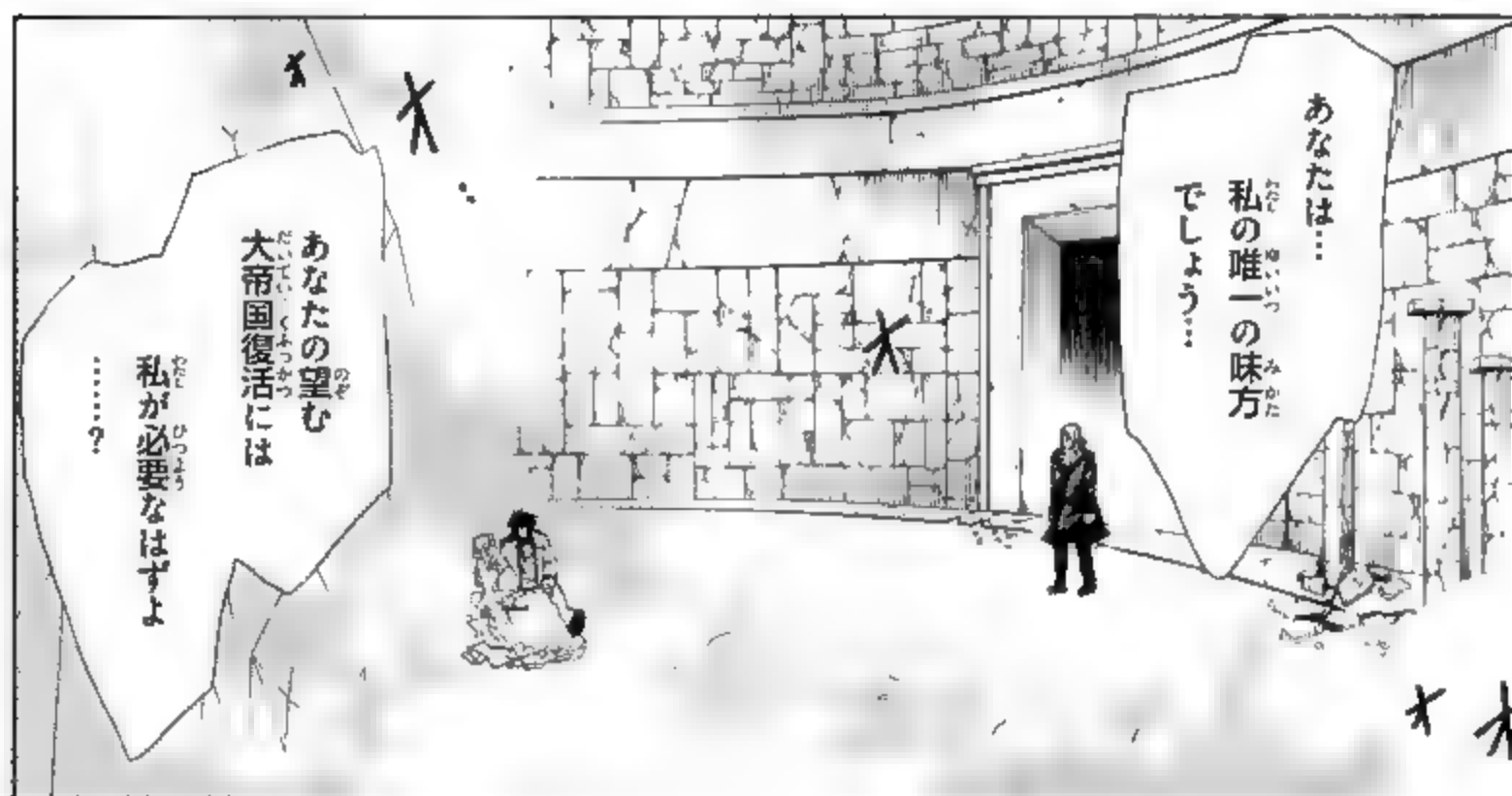
もうすぐ
本当の自由…
邪魔など
させないわ

今から
約一千年前…
まさに大分裂しようと
していた大帝国の
栄誉ある皇女・セシル
私は死後も
大帝国の復活のため
ずっとこの世を
彷徨っていた
……永く待った甲斐あって
ようやく私の魂を受け入れる
器を見つけた
それが
この身体
!!

私は少しずつ
エマの意識を
閉じ込めて
身体を乗っとり
私の存在を
感じられる者を
探したの
でも周りの人間は
エマは気味の悪い
娘だと言うだけ
姫がまた
いなくなった
セイリュウ以外は
誰も私の存在に
気付かなかったわ
エマ姫……
姫の身体を
乗っとって
ついには
国外逃亡を
……!?
エマは……
運がなかった
わよね
クス

ガッ
出ていけッ!!
エマ姫の身体から!!
セシルを
殺して

うわ!!

……エマ姫！
エマ姫 返事をしてくれ!!
くすくすくす
呼ぶだけ？
くそ！どうやって？
どうすれば助けられるんだ!? エマ姫……
あら
残念だったわね
私の騎士が到着したわ
あなたは彼に勝てるのかしら
セイリュウ・ルー

エマ姫!?
……え?

エマ姫！
……！
セイ…リュウ…？
どういう事
……

あなたは…私の唯一の味方でしょう…
あなたの望む大帝国復活には私が必要なはずよ
……？

エマ姫…いや
セシル姫

貴女の野望達成の前に何とかエマ姫の魂を引き戻す方法を探していましたが…

残念だがここまでだ

エマ姫は
ほとんど
現れなくなった
星石のエネルギーを
闇の力に変えるセシルを
このまま暴走させては…
世界は
破滅する
最初から
ずっと…
セシルを
消そうと
考えていたのね
……!!
……一番最悪な
消去方法になって
しまいましたがね
……!!
ザンにだけは
誓っておく

おのれッ!!!

!!!

巨大星石のエネルギーを流用している！
星石ごと滅さねば
消滅せよ！
古の亡霊!!

無礼者オッ!!!

ま
待てっ！

あれは…！
エマ姫の身体だろう!!
エマ姫まで殺すのか!?

時は今だ！

世界が奴に支配されるのを食い止められるのは
やめろ!!

今なんだ!!

エマ!!

Chapter 13 終結

ダメ…
星石の上には…
セシルの…本体が!!
身体がなければ…
魂も…!!

……
保存されていた古の身体
あれを滅せば生霊も消える…
おのれ…
お…の…
……
ガッ

ドサッ
ポタ
ポタ…

ザン……
……
泣かないで……

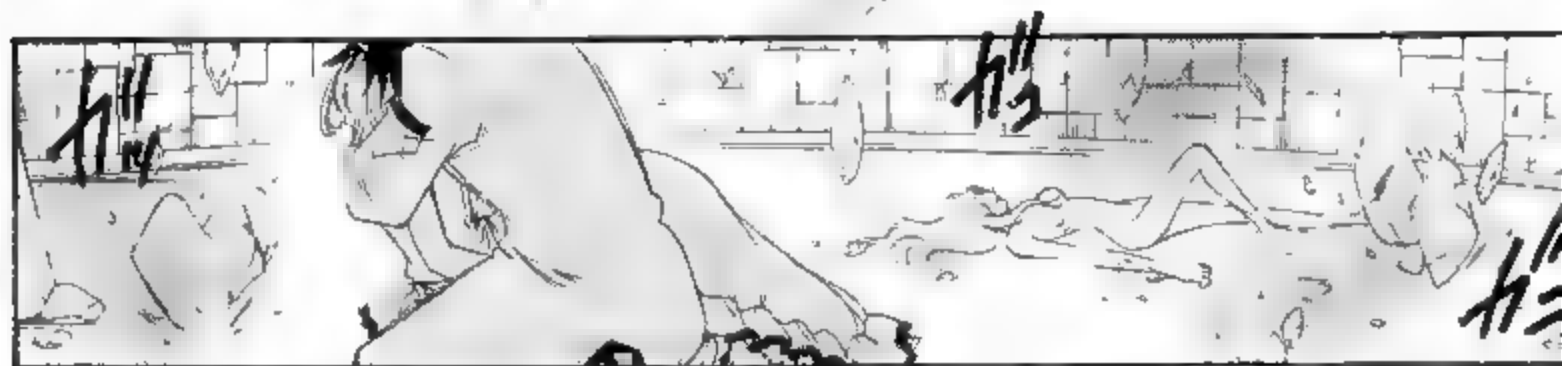
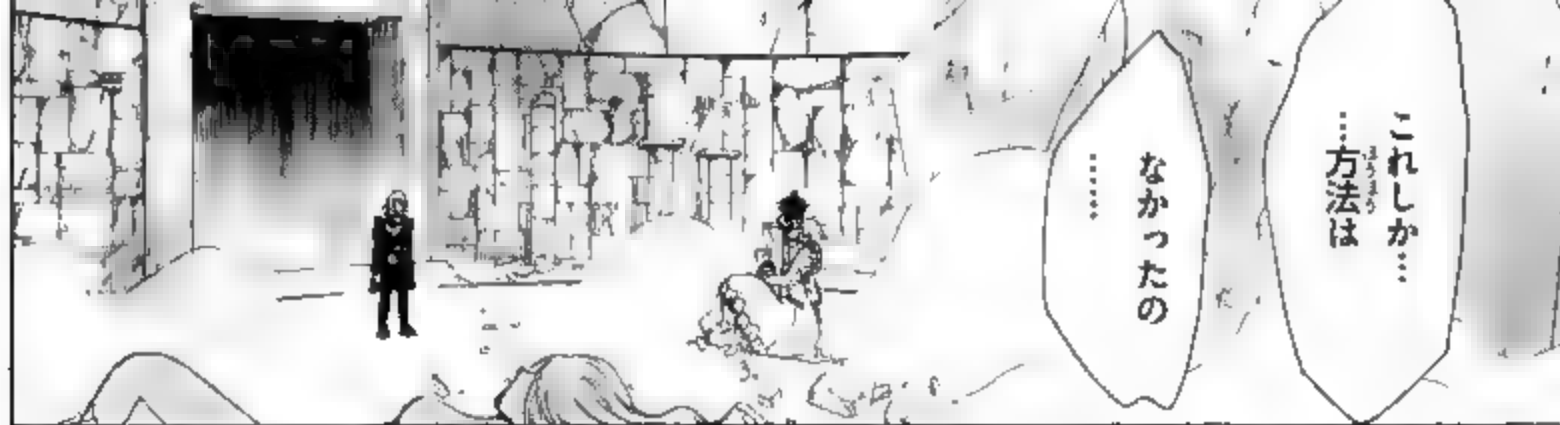
これしか…
…方法は
なかったの
……

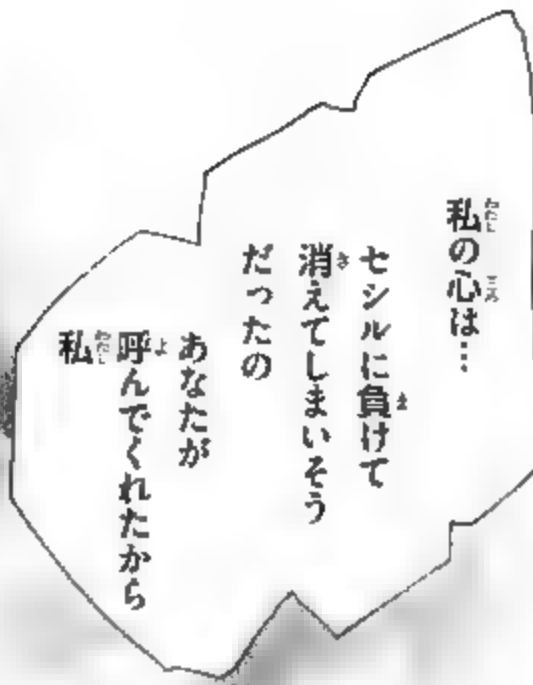
…セイリュウが
気づかなかったら

たくさんの人が…
あの闇の力で
……

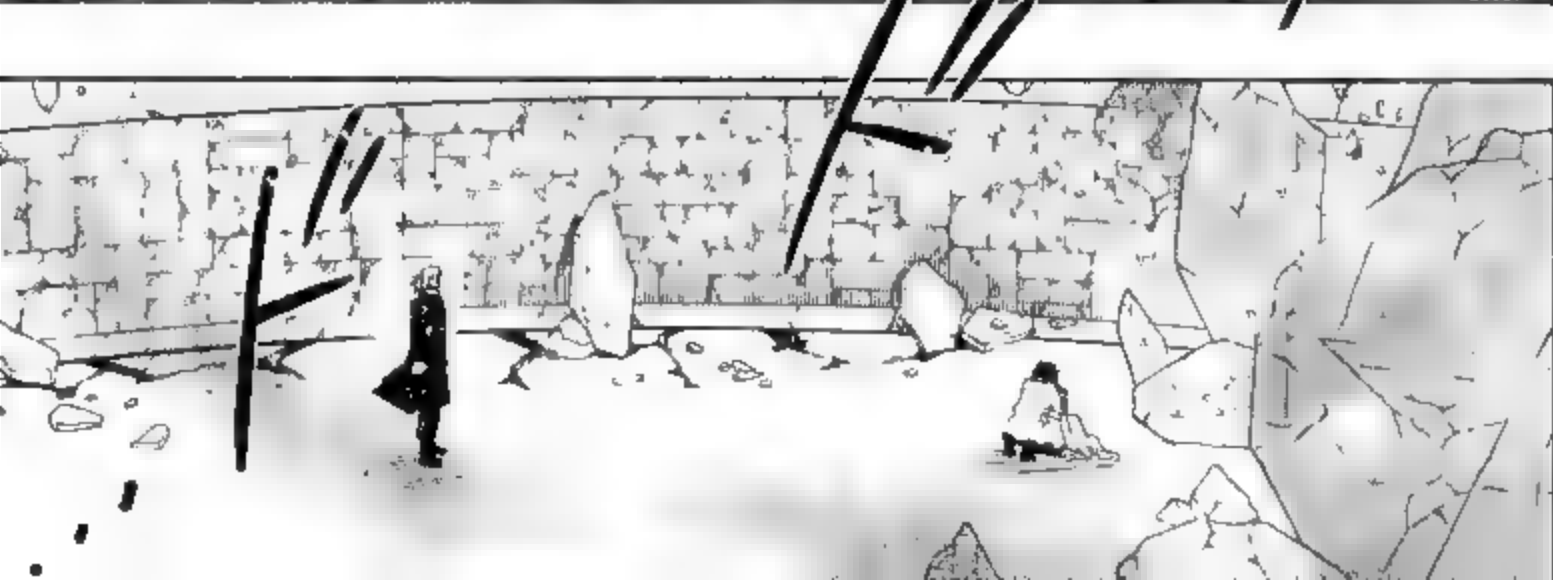
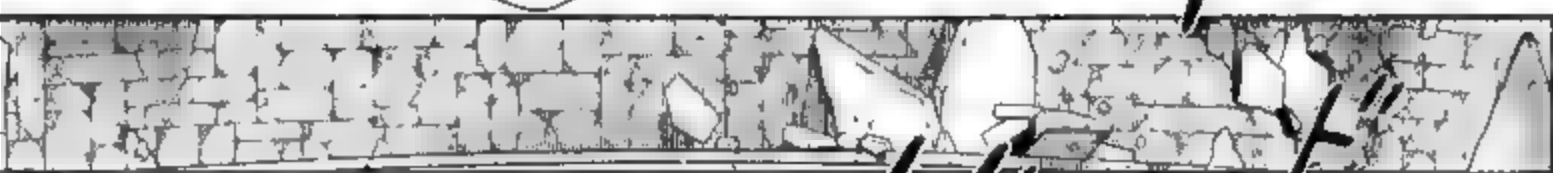
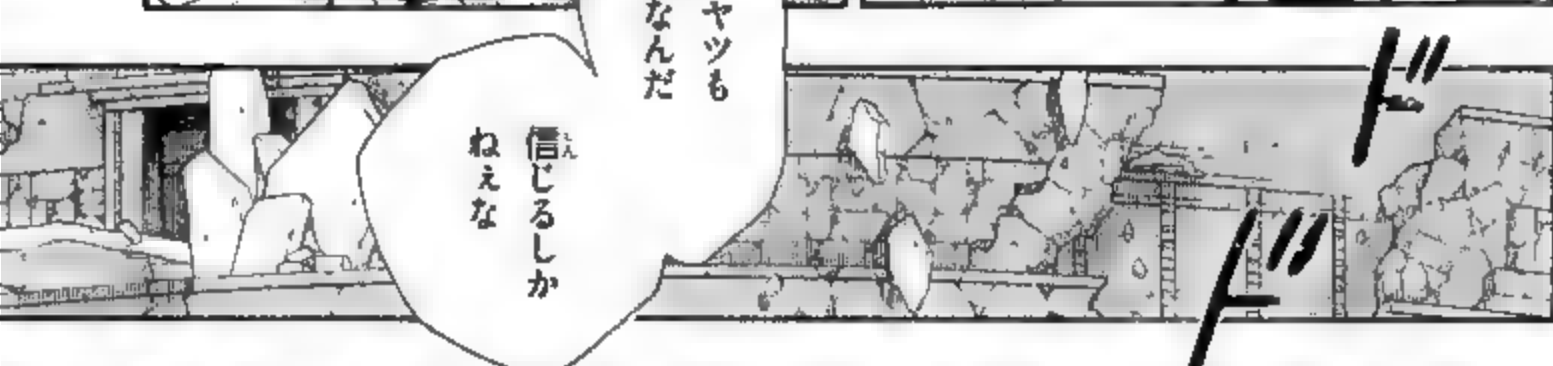
……っ
もう……

喋らないで
……!!

……

私は…
ずっと悪い亡霊に憑かれていたのよ…？
気味悪くは思わないの…？
エマ姫の事が好きだから
こんな所まで探しに来て
涙まで流してくれて…
……
俺は
きっと

攫われたのが
あなただったから
どんな事
してでも…
助けようって
……!!
おかしな
兵隊さんね

ザン
悲しまないで
私の心は…
セシルに負けて
消えてしまいそう
だったの
あなたが
呼んでくれたから
私
ちゃんと
身体へ
戻って…
エマ…
エマ……

……
…巨大星石が割れたせいか
こりゃ崩れるな
出口まで走っても…脱出は無理ですね

ミセリ・コルデ
第四師団の盾で全員を覆えるか？
でもザン君が…
はい！
……ヤツも軍人なんだ
信じるしかねぇな
ドドドドドドド

セシル姫を葬って
私の目的は達成された
罪も犠牲も背負ったまま
私は己の道を進んでいく

お前はどうするザン
悲しみに暮れてここで死ぬか

俺は軍人になったんだ

任務を完遂する

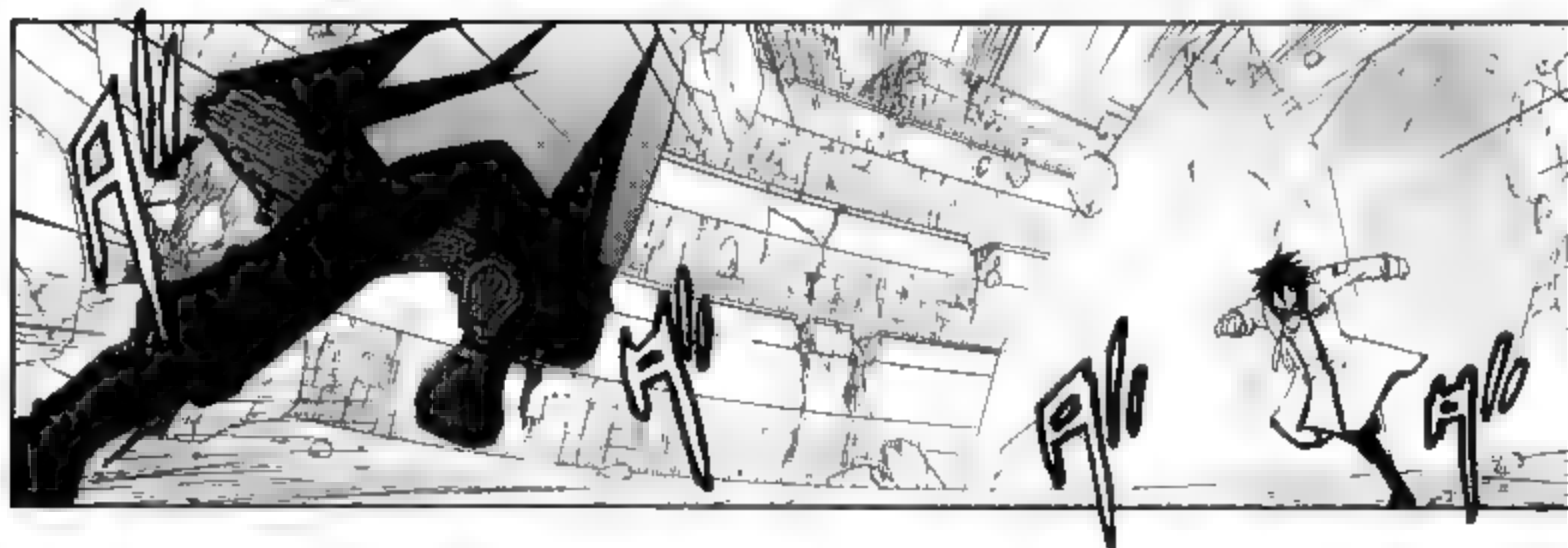
反逆者セイリュウ・ルー

投降し殺めた人々への償いに努めろ

それが

お前の正しいと思う事か

私は二度とセレニティスの土を踏むつもりはない

何をしても償える事ではないのだから

反逆者が決める事じゃない!!

一撃で決める!!

うぐアッ…!!

……
セシルと同じ
闇の力だ…!!

溶けて
なくなるぞ

貫く!!!
星石!?
俺は!父さんに託されたんだから!!

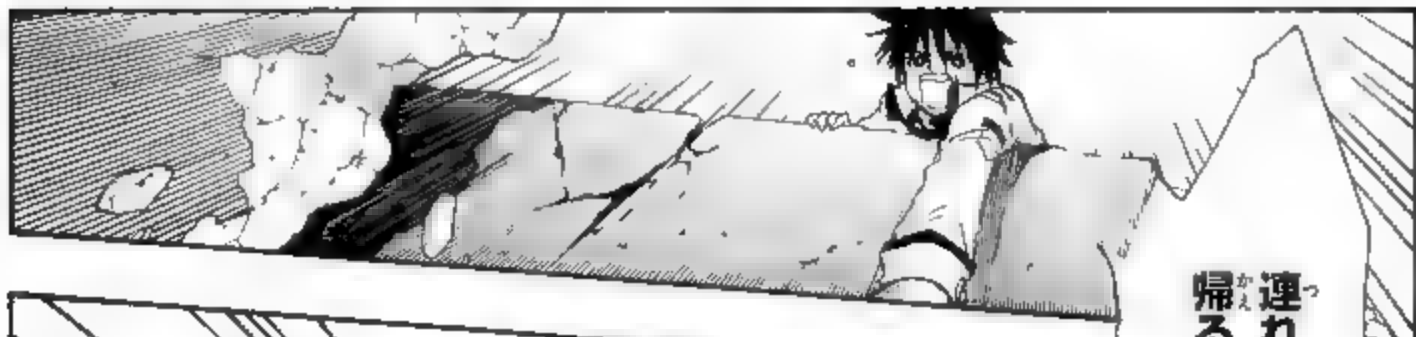
これは……
〝輝星石〟

万に一つ出るか出ないかの
絶大なエネルギーを持つ星石だ
でも父さん
ザン
お前に託した
あの時
私がどうしても抉り出せなかった
親父の右手の星石か
父さんあなたは
ザンに託したのか

そういう事か

ガラ
ラ
……っ

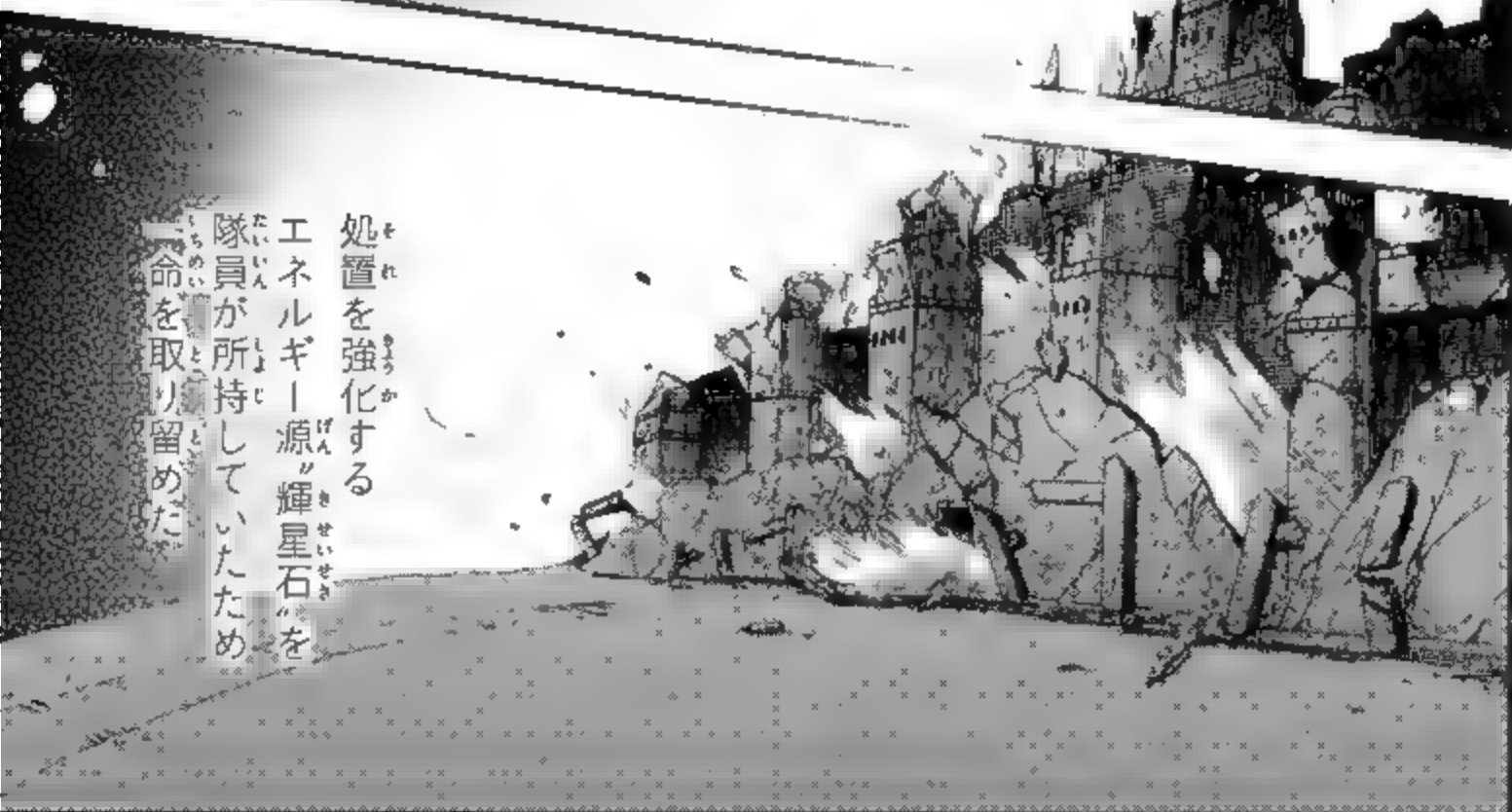
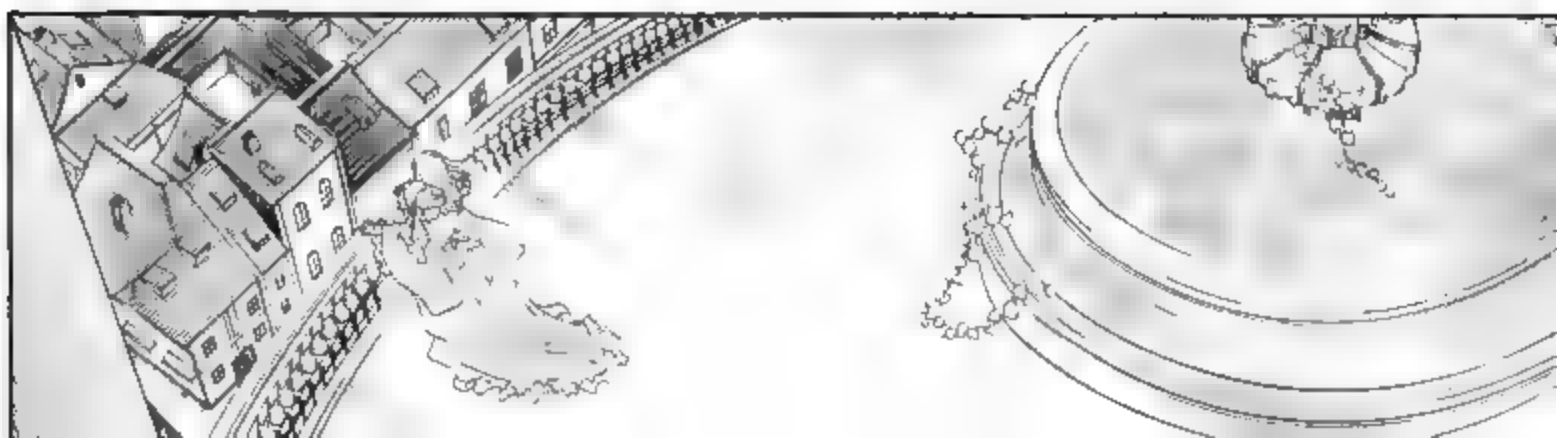
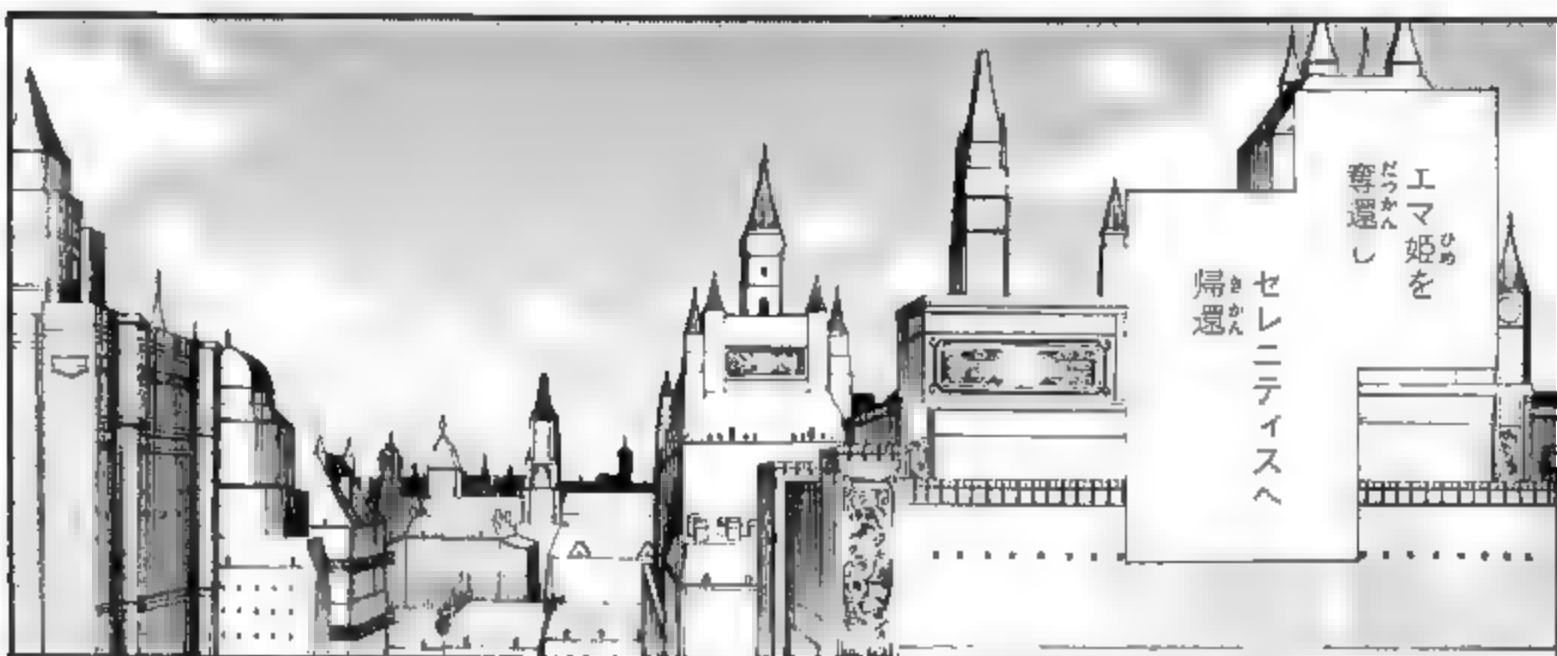
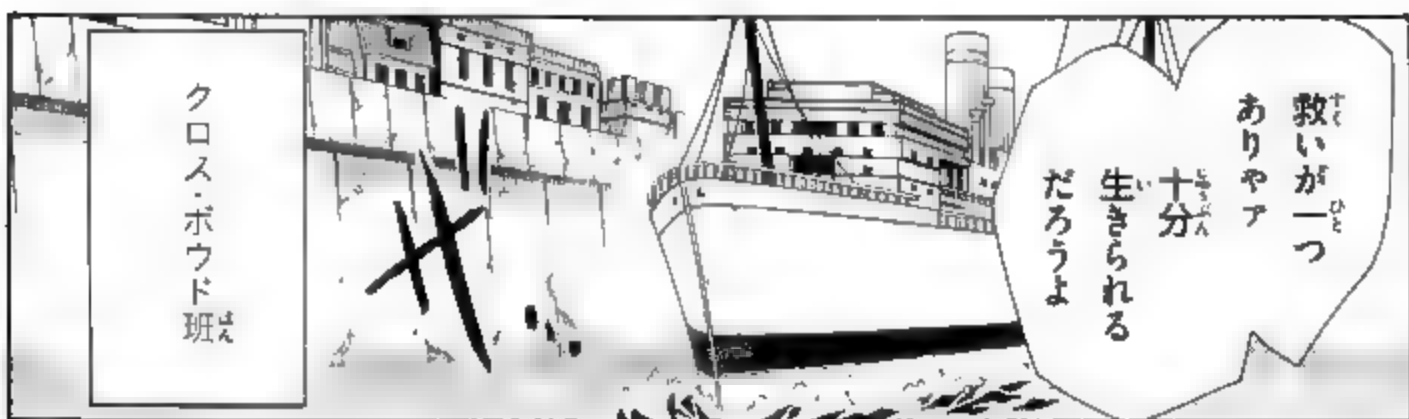
ギ…

私は敵だ
離せ

連れて……帰る……!!
それができなきゃ俺は!
姫を守れなかった俺は!!
何もできずに終わってしまう!!
…その〝輝星石〟があればまだ間に合う
……え?
ズ

に

兄さ
呼ぶな

兄と呼ぶな
悲しむな
私は敵だよ
ザン
ガラ
ガラ
ガラ

ハァ
ハァ
ハッ
ガラ
ガラ
ガラ
隊長
見て下さい!!
あれって…!
ガラ
誕生の丘にて
セイリュウ・ルト
行方不明
敵方の凶行により
エマ姫は瀕死の
重傷を負うも
第四師団の
医療兵の処置と
処置を強化する
エネルギー源〝輝星石〟を
隊員が所持していたため
一命を取り留めた

セイリュウ・ルーはあの崩落で死んだでしょうね
ルー准尉は父に続いて兄まで…
まァ…
姫が助かったからな

救いが一つありゃァ十分生きられるだろうよ
クロス・ボウド班

エマ姫を奪還し
セレニティスへ帰還

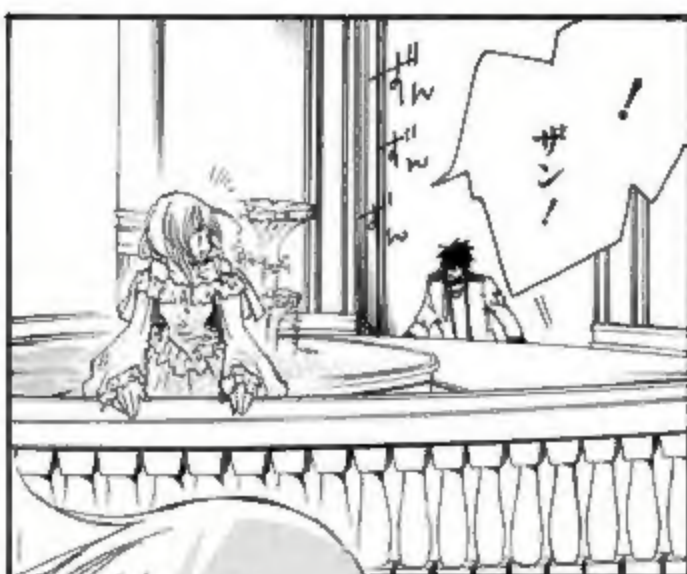
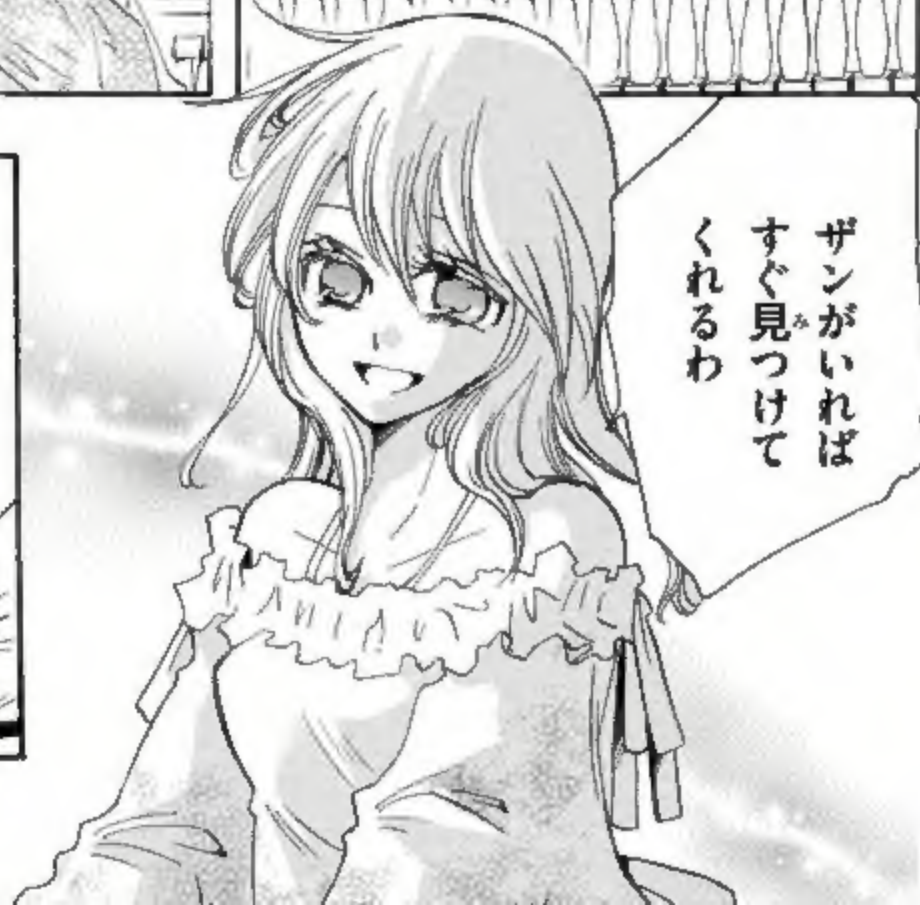
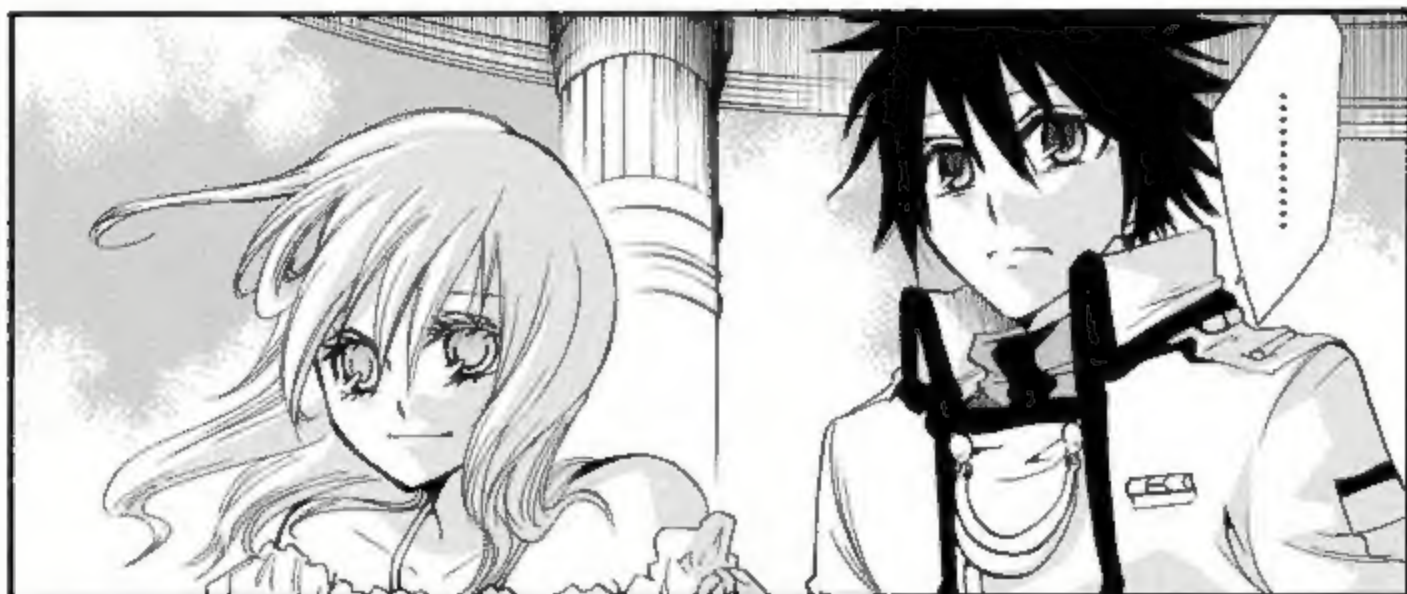
エマ姫！
！
ザン！
ずんずんずん
見て！
キレイよ！
まだ傷は全快してないんですよ！
一人での散歩は禁止です
ザンがいればすぐ見つけてくれるわ
…まったく！
えへへ

父が 兄が
守ろうとした

ねえ ザン
キレイね

私達の
セレニティス

おわり

ブレイクハンズ あとがき

ブレイクハンズ 3巻 読んで下さった皆さん
ありがとうございます!
今巻で 本作 完結となりましたー。
描ききれてない 部分も 多々 あったと思いますが
少しでも 楽しんで 頂けていたら ありがたいです。

↑ このキャラクター達 作中では ものスゴ
短期間の 任務だった 訳ですが(笑)
連載期間は 1年ちょい ありました。
その間 お付き合い下さった 読者の皆さん、
ホントに ありがとう ございました。
また どこかで お会いできますように。

佐々木ミノル

作画スタッフ 植村えりか カミムラ よしの

スタッフの皆も ありがとう!

ブレイクハンズ ～星石を継ぐ者～ 3

著者名……佐々木ミノル

発行者……三坂泰二

発行所……株式会社メディアファクトリー

http://www.mediafactory.co.jp/

2012年8月31日　電子書籍版　ver.1.1.0